

平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 富洲原まち・ひと・しごと創生

地区名 富洲原

1. 望まれる地域の姿

「ひと」のつながりが強く、
「まち」の幸福度が高く、
「まち」の魅力が「まち」へのひと・しごとの流れを生んでいる。

2. 地域の現状

- ・人口が逡減し、高齢化が進行している。
- ・都市のスポンジ化が進んでおり、空き家が増加している。

3. 課題

- (1)地域の高齢化、人口流出により地域のつながる力が弱まっている。
- (2)地域の個性が高度成長期の市街地拡大により埋没。
- (3)まちづくりの担い手不足、若者、よそ者（第三者的な視点）の不在。
- (4)まちづくりの方向性が共有されていない。（まちづくり構想が未策定）

4. 実施内容

1. 「まち」「ひと」のつながる力をつける

ICT をテコに地域住民のネットワークを広げることで、ソーシャル・キャピタルを豊かにし、相対的に健康で、寿命が長く、就業率が高い環境をつくる。（まちづくり、福祉、防災、防犯の体力をつける）

- (1)facebook page「富洲原ぶらっと」

地区の魅力を磨き、課題を解決する場(プラットフォーム)として利用
視察先、講演依頼者とも交流継続



- (2)高齢者への ICT スキルの普及

【啓発】地域情報化アドバイザー講演会(富洲原地区の地域情報化を進める人材募集) 22 人

⇒【人材育成】シニア ICT 先導者養成講座 8 人参加

⇒【組織化】「高齢者の情報化相談室」結成 5 人

⇒【実践】シニア向けスマホ、タブレット使い方相談会 4 回開催 15 人

2. 「まち」の個性、魅力を再発見、共有する

まちづくり構想策定に向けての前段として、地域の課題や可能性を探るため、先進地視察、講演会、調査を行う。魅力の発見については学生など外部からの若い視点も取り入れながら進める。

- (1)富洲原地区全域

①先進事例の視察 長浜市田根地区 12 人参加

②空き家対策講演会 12/4 25 人参加

講師 菅谷幸弘(六原まちづくり委員長)

③空き家の手帖 全自治会長に配布

④古い写真、資料の収集の呼びかけと保存メンバーの募集

⇒H29 デジタル化による保存

⇒将来は空き家を利用した「郷土資料館」に

- (2)富田一色・天力須賀地区⇒空き家のリノベーション

①三重大学大学院(工学系)による富田一色の町屋・町並み調査(10/29 12 人、11/23 自由調査)

(三重大学 菅原教授、院生 11 人)

現地調査に合わせて instagram による町の情景の発信 #富田一色発見、#富田一色再発見など
発表会 2/10 19 人参加)

【11 人の発表テーマ】

町の姿

町の形成と住民の暮らし、アメニティ、

町屋と通りの関係

町屋と減退住宅の建築物の配置関係と外構空間、敷地規模、路地から見える
景観構成要素

町屋

格子と通り、屋根構造体の小口、蔵の現状と保存活用方法、建築物の特徴

防災 南海トラフ巨大地震の被害想定
伊勢湾台風の被害と敷地かさ上げの階段類型
※複数名より蔵を活用した居酒屋の提案あり

②慶應義塾大学との域学連携事業

(慶應義塾大学 一ノ瀬教授 板川特任助教、学生 14 人)

・事前打合せ(11/19)

SFC ORF(湘南藤沢キャンパス オープンリサーチ フォーラム)見学、「芝の家」見学
連合自治会 4 名、館長

・skype を利用した遠隔会議(慶應、あがた、富洲原)による事前調整(12/27、2/2)

・県地区、富洲原地区合宿調査(2/21～2/24)

意見交換会 2/22 天カ須賀 20 人、2/23 富洲原中学 9 人 富田一色 21 人

発表会(県地区と合同) 2/24 住民 29 人 学生は ABC の 3 班に分かれて発表

【発表内容】

A 班 「運河を活用した・新商店街」

住吉運河を埋立て商店街(居酒屋など)をつくる提案

B 班 「だがシアター」

地域の課題である、空き家(蔵)、世代間のコミュニケーション、放課後の居場所の解決に、
空き蔵を「駄菓子屋＋映画館」にリノベーション

C 班 「古民家での居場所づくり」

空き家リノベーションだけでは一過性のものになりがちなので、継続性を持たせるために運営
は日替わりオーナー制を提案

(3)松原地区⇒聖武天皇社を中心に育まれてきたコミュニティの継承

①facebook を通じて博士課程院生との交流 8/20 松原公会堂 10 人

②「聖武天皇と伊勢」講演会 2/5 松原公会堂 36 人

講師 栄原永遠男(大阪歴史博物館長)

③「歴史文化資源から地域を元気にする方法」講演会 3/22 松原公会堂 松原連合自治会等 31 名

講師 板井正斉(皇学館大学准教授)

3. 「まち」の個性を磨き、「ひと」「しごと」を呼び込む

一過性の交流ではなく、外からの移住や町屋での起業を視野に入れた少なくとも濃密な交流を企てる。

(1) 空き家利用への人脈づくり

⇒域学連携の準備作業等で、建築家、元ギャラリーオーナー、司法書士、まちかど博物館長との繋がりができる。

⇒H29 まちづくり委員会の空き家対策部会メンバーへ

(2) 空き家利用のマッチング

空き家バンクのような経済原理に基づくものではなく、「地域への想い」を重視

(H28 年度末時点)

貸したい人 facebook への問い合わせ 1 件(天カ須賀地区の古民家でパン屋をやりたい)

借しても良い人 域学連携の準備作業等で発見 2 件(富田一色地区 住居系1、商業系1)



あの頃の富洲原へ

大正 12 年の「富洲原案内」の人情風俗に関する記述

「人情敦厚にして性質単純活淡、而も熱情に富み他を愛すること己のごとく、為に他地方人士の来

往するもの何れも其の住みやすきを嘆称す」

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	シニア ICT 先導者養成講座	24,000	市内パソコン教室講師
	スマホ、タブレット相談会	40,000	高齢者の情報化相談室
	空き家対策講演会	25,000	まちづくり組織代表
	講演会「聖武天皇と伊勢」	46,000	歴史博物館長
	慶應義塾大学との域学連携	298,320	慶應義塾大学一ノ瀬研究会
	講演会「歴史文化資源から地域を元気に」	24,520	大学准教授
旅費	域学連携打合せ、先進地視察	125,000	連合自治会関係者
需用費	タブレット	91,692	NEC フィールドイング
	「空き家の手帖」各自治会配布	30,000	六原まちづくり委員会
	その他消耗品	63,244	㈲コム・イン三重 他
役務費	バス視察保険	2,400	三岐鉄道
委託料	富田一色の町屋・町並み調査	101,978	三重大 TLO
	マイクロバス運行管理業務	8,257	(株)セノン
使用料	バス借上げ(長浜市田根地区)	106,260	三岐鉄道
備品購入費	プロジェクター	64,584	㈲コム・イン三重
合 計		1,051,255	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
facebook へのいいね	100	90 リーチ最大 974

7. 成果

(1)地域の人のつながりが広がることで、健康寿命の延伸、幸福感の増進につながり、地域課題の解決に向かう底力をつけることができた。
 (2) facebook での交流やワークショップを通じて地域の枠を超えた知恵を結集し、関心のあるテーマごとに自発的で楽しく楽な（負担の少ない）取り組みが生まれつつある。

8. 今後の展開

富洲原地区の facebook を舞台に、地域を越えたネット上の交流が生まれた。
 今後は、空家などを活用した交流の場へとつなげ、地域への移住や働く場の創出へと広げ、人口減少、高齢化、災害に負けないような地域をつくる。

1. 「まち」「ひと」のつながる力をつける

- (1) facebook による地域情報発信「富洲原ぷらっと」
いいね 81人 フォロー 83人 (平成29年3月)
リーチ 最大974人



シニア ICT 先導者養成講座

⇒「高齢者の情報化相談室」として組織化へ



(2) 高齢者への ICT の普及

総務省地域情報化アドバイザー 近藤則子氏

シニアネット (ICT スキルを高齢者が高齢者に教える仕組み) について講演



「高齢者の情報化相談室」3/10、3/17、3/22、3/24
第1回 3/10



2. 「まち」の個性、魅力を再発見、共有する

- (2)①三重大学大学院 (工学) による富田一色の町屋・
町並み調査 (10/29 11/23 2/10)



院生からの発表内容

町の姿	
1	富田一色の形成と住民の暮らし
2	富田一色町のアメニティ
町家と通りの関係	
3	富田一色町の町屋型及び現代型の住宅における建築物の配置構成と外構空間に関する調査
4	富田一色町 敷地規模の調査 -北町、広小路町、布袋町を事例として-
5	富田一色町における路地から見える景観構成要素に関する調査
町家	
6	富田一色町の格子と通りについて
7	富田一色町の裸木造に見られる屋根構造材の小口の防腐技法
8	四日市市富田一色における蔵の現状把握及び保全活用方法の提案
9	富田一色町における建築物の特徴に関する研究 -広小路を軸とした地区を対象として-
防災	
10	富田一色における南海トラフ巨大地震の被害想定
11	伊勢湾台風による富田一色の被害と敷地高さへの階段類型の調査

(2) ②慶應義塾大学との域学連携事業

skype を使った県地区、富洲原地区、慶応大学との電子 天カ須賀地区意見交換会
会議



大学生と富洲原中学校との交流
将来の希望、地元に残るかどうか



2/24 発表会

A 班 「運河を活用した・新商店街」

B 班 「だがシアター」

C 班 「古民家での居場所づくり」



3. 「まち」の個性を磨き、「ひと」「しごと」を呼び込む

(1) 空き家利用への人脈づくり

域学連携の準備作業等で、元ギャラリーオーナー、司法書士、まちかど博物館長との繋がりができる。



(3)松原地区⇒ 聖武天皇社を中心に育まれてきたコミュニティの継承

①facebook を通じた修士課程学生との出会い

8/20 修士課程学生と松原地区連合自治会で聖武天皇社周辺の課題について議論



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 伝統文化を活かしたまちづくり事業

地区名 富田

1. 望まれる地域の姿

国指定重要無形民俗文化財である「鳥出神社の鯨船行事」が、ユネスコの無形文化遺産の候補となったことに伴い、これまで以上に地域の文化財が四日市の宝として保存・継承されていく地域

2. 地域の現状

- ・ 高齢化及び少子化に伴う後継者不足
- ・ 保存・運営のための資金難
- ・ 対外的な情報発信不足

3. 課 題

鯨船行事を始めいくつもの山車など有形無形の文化財が豊富にある富田地区は高齢化、少子化による後継者不足により技術の伝承が難しく行事の維持が難しくなっている。また、東海道を始め、富田には名所や文化財等が豊富にあるが地区住民には十分知られておらず、昨年発行した「とみだふれあいマップ」の反響の大きさからも地域の帰属意識やコミュニティ意識を醸成していくことが非常に重要となっている。このためこれまでの情報発信不足を解消すべく、地域活性化のために各種行事を実施して住民意識の醸成と対外発信に努める。

4. 実施内容

(1)ユネスコ登録事業

- ・ユネスコ登録記念イベントとして芸能史研究家の前田憲司氏による記念講演会を 1/28 に開催した。(参加者 68 名)
- ・ユネスコ登録に伴う観光客に視聴させるため、既存映像の再編集と観光客から質問の多い鯨船の見分け方を鯨船 4 艘のパーツの比較と説明文を映像化してDVD化した。(20 枚制作、配布先：鯨船 4 保存会、社会教育課、文化振興課、博物館、図書館、文化会館、富田小中学校、四日市高校、北星高校、観光協会、昭和 6 年映像提供者等)
- ・ユネスコ登録を記念して 12/2 にセンター玄関パラペットに祝ユネスコ無形文化遺産登録横断幕を設置した。

(2)東海道イベント(焼蛤発祥PR)実施

観光・シティプロモーション課とJR東海「さわやかウォーク」と共催で 11/6 に東海道イベントを実施し、拠点イベントとして「富田の焼きはまぐり発祥地」PRイベントを実施した。(1,300 名参加)同時に「富田文化財ウォーク」と称して地区の文化財めぐりイベントと昨年作成したふれあいマップを題材に「富田検定試験」を実施して富田の魅力を周知した。(140 名参加)

(3)ふれあいマップ(英語版及び日本語版増刷)

ユネスコ登録に伴う外国人観光客に対応するための英語版ふれあいマップ(3,000 部)を新たに作成するとともに、増加する観光客に対応するために昨年度作成した日本語版ふれあいマップ(40,000 部)を増刷した。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	講演会講師謝金	22,274	芸能史研究家
需用費	講演会チラシ用カラー紙	1,254	青商店
	ふれあいマップ英語版及び日本語版増刷	658,800	阿竹印刷
委託料	ユネスコ登録横断幕製作	52,920	小林看板店
	鯨船DVD制作	162,000	アビ・コミュニティ
	東海道イベント拠点イベント(焼蛤発祥地 PR 等)	156,000	富田地区社会福祉協議会
	ふれあいマップ英語版翻訳イラストレーター制作	183,600	インターグループ
備品購入費	プロジェクター	64,584	コム・イン三重
合 計		1,301,432	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
東海道イベントの観客	700 人	1,440 人(実績)内訳 東海道イベント 140 人 JRさわやかウォーク 800 人 観光シティスタンプラリー 500 人
ユネスコ登録観光客	1,500 人	1,649 人(ふれあいマップ)

7. 成果

ユネスコ無形文化遺産登録申請を機に昨年制作したふれあいマップの英語版制作、鯨船等による活性化(地区内菓子店への鯨船どら焼き開発働きかけ、鯨船缶バッジ制作等)、焼蛤発祥地啓発(ふれあいマップへの書き込み、焼蛤説明版制作、飲食店への焼蛤メニュー化働きかけ、POP制作)等館長予算に限らず細かい仕掛けも行った。

東海道イベントでは鯨船や石取山車参加を実現し、JR東海及び観光シティ・プロモーション課に働きかけ11月6日に共同開催を実現したことから、1,440人の観客動員を実現できた。

8. 今後の展開

漢字の読み、用語、船のパーツ等の翻訳などに配慮して「ふれあいマップ英語版」を制作した。また、観光客対応DVDも観光客から質問の多い鯨船の見分け方を鯨船4艘のパーツの比較と説明文を映像化してDVD化した。昨年の山車蔵説明板と今年の事業で8月の夏祭りへの観光客対応は行った。新年度事業では社会教育課が市民向けの鯨船出前講座や保存会向け技術伝承事業も予定しており、文化振興課も市内の鯨船保存会を集めて検討会議を始めている。センターとしては、保存会に内向きの祭りから外向きの祭りへの意識変化が芽生えていることから、社会教育課の新年度事業に歩調を合わせ、鯨船の活性化策について四艘会とともにさらに検討をしていく。

東海道イベント拠点（富田の焼蛤PR）



焼蛤説明板(B2)及びプラミネート板(A3)5枚



はまぐり最中



鯨船焼印どら焼き



鯨船缶バッジ



文化財ウォーク



富田検定試験



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 来訪者おもてなし及び地域交流事業

地区名 羽津

1. 望まれる地域の姿

地域の埋もれた観光資源を掘り起こしこれを活用して「来訪者をもてなし」することにより、まちのにぎわいを取り戻す。また、この事業により地域住民の交流をより一層活発化する。

2. 地域の現状

羽津地区は他地区から転入してきた住民も多く地区内に存在する名所、旧跡の知識が乏しい。また地域住民の交流も少ない。

3. 課題

他地区からの転入者も多く地区内に存在する名所、旧跡が知られていない。また、埋もれた観光資源を再発掘する。そこでスタンプラリー等を行うことにより地区内の知識を増やし「来訪者のもてなし」が可能となるようにする。また老朽化した観光資源をみんなで整備修復し、地域住民の交流をより一層活発化させる。

4. 実施内容

- ① スタンプラリーの実施 参加者 60 名 ボランティア 40 名 計 100 名
・8月6日(土)8時から11時 快晴のもとヴィラ四日市をスタート、いかるが町集会所をゴールとして、羽津および鵜地区にある糠塚山周辺をめぐるコースにてスタンプラリーを実施した。
- ② サバイバル講座の実施 参加者 36 名 高校生 8 名 ボランティア 50 名 計 93 名
・9月3日(土)14時から4日11時、小中学生を対象として災害時を想定した疑似避難所体験を羽津北小学校にて実施した。
- ③ 放置された観光資源の整備修復 参加者 62 名
・昨年度制作した「まち歩きマップ」を東海道沿いの八田第一自治会集会所と大矢知街道沿いの羽津地区市民センターに設置した。また、大矢知街道沿いに設置されている羽津を表現した壁画の老朽化による修繕および再塗装を地元のボランティアによりリニューアルした。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	スタンプラリー、サバイバル講座	400,000	羽津地区まちづくり推進協議会
	壁画修復	495,180	須藤溶接工業所
	ふれあいマップ看板	302,400	常磐工芸株式会社
需用費	壁画修復 ペンキ等	83,160	アラキヤ
	壁画修復 刷毛、軍手等	21,295	
合 計		1,302,035	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
スタンプラリー・防災サバイバル参加者	200名	255名

7. 成果	8. 今後の展開
・ふれあいマップを見ながら史跡等をめぐることにより地域の資源を再認識できた。高齢者から親子連れなど様々な世代の方が参加されまちづくり活動への関心を高めることができた。 ・サバイバル体験講座では、班別の行動で自分たちが何をなすべきかを話し合いで決め実行できたことは今後の防災活動に有意義であった。 ・壁画の塗り替えにおいては、郷土の獅子舞等の伝統的なことについて再認識するとともにイベントに参加することでまちづくり活動に関心を向けることができた。	・まちづくりを担う人材を育成するため、小学生や中学生を対象としたサバイバル体験講座等の事業は今後も継続して実施していく。また、これまでの活動でまちづくり活動にかかわる新たな人材を発掘できたが、今後は、ボランティアの活用の方策を検討する。

スタンプラリー



サバイバル体験講座



羽津ふれあい看板



羽津会館 壁画修復



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域ふれあい推進事業

地区名 常磐①

1. 望まれる地域の姿

少子高齢化が進展するなか、すべての世代が「ふれあい」を通して、仲間意識を醸成し、他人を思いやることのできる地域。

2. 地域の現状

常磐地区は都市化が進み、子どもたちが土に触れる機会が少なくなっている。また、核家族化などにより、地域意識の希薄化がすすみ、人への関心が薄れている。

3. 課題

地域意識の希薄化により地域の活性化が弱まり、地域一丸となって取り組むべき防災対策事業などの推進が困難になりつつある。地域のふれあいを推進することで地域力の復元が急務となっている。

4. 実施内容

常磐小学校2年生(115名)、常磐西小学校2年生(135名)を対象として、ともに校区内に農地を借り上げ、地権者、地域の方々等の協力を得ながら、6月20日にはさつまいもの苗植え、10月20日には収穫の体験事業を行った。

また、収穫したさつまいもについては、11月6日に開催された「常磐まつり」において焼き芋の試食、生芋の販売を行い、売上金等22,149円について熊本地震の被災者への義捐金として寄付を行った。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	栽培指導者報償費	120,000	地元農業関係者(2名) (農地借り上げ料含む)
需用費	栽培資材(苗、肥料等)	75,724	三重北農業協同組合
	看板資材	16,200	常磐工芸(株)
	用紙	2,800	(株)ワークス
	栽培用資材	66,279	DCMカーマ(株)
	事業揭示物	9,288	フコク印刷工業(株)
使用料及び賃借料	石焼いも器使用料	64,800	ダスキントール
	ガス使用料	6,512	三重品川産業(株)
合 計		361,603	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
参加児童の満足度	90%	86%
常磐まつり参加者満足度	90%	91%

7. 成果

- ① 子どもたちによる芋の苗植え、収穫
 - ・情操教育の推進
 - ・地域の人々、保護者とのふれあい
- ② 常磐まつりでの焼き芋等の提供
 - ・都市化された地区内での農業とのふれあい
 - ・地域の連帯感

8. 今後の展開

地域の評価も良く、地域からは事業の継続を望まれているが、センターが中心となり実施していくには限界もあり、より地域を巻き込むこと、さらには地域が中心となって事業が実施されることが必要である。

さつまいもの苗植え



さつまいもの収穫



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 ふるさと創生事業

地区名 常磐②

1. 望まれる地域の姿

地域に居住するすべての人々が、常磐地区をふるさととして愛着を持ち、定住し、互いに協力しながらまちづくりを進める地域

2. 地域の現状

常磐地区は都市化が進展する一方、人々の地域愛の希薄化が進みつつある。

3. 課題

地域住民の地域愛の希薄化により、特に若い世代の定住化が低い傾向にあり、地域をもっと知ることにより、地域に愛着を持ってもらうことが必要となっている。

4. 実施内容

① クリーンセンター・四日市公害と環境未来館の視察研修

地域の団体と連携しながら、夏休みの7月29日(金)に、今年4月に供用開始したクリーンセンター及び昨年度開館した四日市公害と環境未来館の視察研修を実施した(参加者 55名)。

② 常磐地区の歴史遺産に関する講演会

平成29年3月4日に、講師に地元の歴史専門家を招き、「常磐の歴史遺産や歴史遺産を活かしたまちづくりについて」をテーマに講演会を開催した(参加者26名)。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
使用料及び賃借料	バス借り上げ料	102,600	(有)ささき観光
報償費	講師報償費	19,000	地元歴史家
合 計		121,600	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
クリーンセンター等視察研修会参加者	40人	55人
常磐地区歴史遺産講演会参加者	40人	26人

7. 成果

常磐地区の一部地域も指定地域であった四日市公害の歴史について学び、自分たちが住む常磐地区の環境の大切さを考える機会となった。

8. 今後の展開

地域住民に地域をもっと知ってもらい、地域に愛着を持ってもらえるよう、次年度以降においてさらなる地域意識の向上に努める。

クリーンセンター視察研修



常磐地区歴史遺産に関する講演会



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域防災女性リーダー養成事業

地区名 常磐③

1. 望まれる地域の姿

男女が、性別を問わず、自らの意思によってあらゆる分野における活動に参画する機会が確保される地域

2. 地域の現状

当地区においては、自治会長等に就任する女性も見受けられるものの、まだまだその数は少なく、必ずしも男女共同参画が実現しているとは言い難い。

3. 課題

今年度、当地区において、初めて地区をあげての避難所運営訓練が実施される場所であるが、東日本大震災等の大規模災害の経験を踏まえると、女性の視点を取り入れた避難所運営が大変重要である。このことは地域のリーダー等は認識しているところであるが、現実的には女性の参画を得るには困難な状況にある。

4. 実施内容

平成28年11月25日に避難所運営訓練の中心となる地区防災協議会の役員を中心に懇談会を実施した。(参加者 11名、会場 地区市民センター)

平成29年1月25日には子育て世代の女性を対象とした講座を実施(参加者 10人)し、参加者の中から2月12日に実施された避難所運営訓練へのスタッフとして(6名)参画を得た。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	講師報償費(旅費込)	180,680	NPO 法人(防災関連)代表、大学教授
需用費	防災啓発グッズ	15,539	DCMカーマ(株)
合 計		196,219	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
地域防災女性リーダー講座参加者	15 人	10 人

7. 成果

役員を対象とした講座では女性の視点の大切さを再認識させることができた。
また、女性向けの講座を実施し、10名の参加者を得ることができた。

8. 今後の展開

次年度も同様な訓練が実施される予定であり、女性の参画について、さらなる充実を図っていく必要がある。

地域防災女性リーダー講座



防災関連用品展示



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	日永地区の観光資源発掘によるシティプロモーションの推進	地区名	日永
------------	-----------------------------	------------	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
生活における各方面に恵まれ、地域住民が便利というだけでなく、住みたいと思える地域。	商業施設、交通手段（あすなろう鉄道を含む）や、東海道をはじめとする史跡等に恵まれている。

3. 課 題
自然環境を生かした観光資源を充実させるため、地元の有志団体において熱心に活動はしているもののもう一つ活かしきれていない。したがって、その認知度を向上させるための方策が求められる。

4. 実施内容
① 東海道、日永地区の史跡紹介の絵はがきの作成 東海道、日永地区の史跡を紹介する記念品として絵はがき（5,000 セット）を作成し、PRの手段として利用した。 絵はがきは、3/18 に都市整備部が実施した「まんじゅう列車」でも約 350 人の郷土資料館の来館者があり、配布した。今後も資料館およびセンターに常備し、来訪者に提供するほか、地域のイベントやあすなろう鉄道関連のイベント等で日永地区のPRに役立ててまいりたい。 ② 南部丘陵公園散策路の案内表示の作成、設置 南部丘陵公園の散策路に案内補助の表示を作成し、設置した。 ハイキングコース整備については、都市整備部の事業内容を確認しながら補助看板の設置に取り組んだ。看板総数 30 本、うち 3 本のみ登城山の山頂、行き止まりなどの補助看板とした。それ以外の 27 本は「順路」の表示で分岐などコースを逸脱することの無いように、設置した。3/15 に前もって下見し、設置個所の選定をしたうえで、看板設置は 3/20 に設置作業を実施した。下見は委託先会長を含めて 2 名とセンターにて実施。看板設置は委託先メンバー 10 名で行った。 ③ 梅林育成講習会の実施 梅の手入れに専門家を招へいし、地元団体メンバーの技術向上を図る。 剪定講習会は農業センター職員を講師として、住民 16 名の参加にて 2/11（土・祝）に開催。剪定についての基礎知識資料を参加者に配布。実際に梅を見ながら、どの枝をどの程度切るとよいのか、肥料や防虫の薬剤散布はどのような時期がよいか、など説明の後、剪定体験などに取り組んだ。 ④ 地区ホームページの充実 日永地区の歴史や自然環境等地域資源の魅力等地区ホームページでの地域情報の発信に向けて取り組みを進めた。

5. 経費			
金額単位:円			
支出内訳		支出金額	支出先
需用費	梅林育成講習会用資材等	198,568	クラギ(株)
	日永名所・旧跡絵はがき印刷	364,500	阿竹印刷工業(株)
委託料	ハイキングコース整備	145,800	「日永梅林・登城山」を復活させる会
合 計		708,868	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
剪定等講習会参加者	10人以上	16人
イベントでのアンケート満足度	80%以上	94%

○イベントでのアンケートについては、3/5(日)の梅まつりにて実施。回答数は34件と少なかったがそのうち32件が育樹に「大いに期待する」との回答を得た。また会場において口頭でも意見収集したが、期待する旨の意見がほとんどであった。

7. 成果

- ① 絵はがきの制作については、今後、日永地区イベントで配布の他、郷土資料館への来館者に提供を予定。年間約3,000人の来館者があるため、1年半程度にて配布できると見込まれる。これにより日永地区の東西をつなぐシティ・プロモーションの入り口になると考える。
- ② 梅の育成については、ただ植樹するだけだったものが剪定、施肥などさらに梅林の充実につながるとともに、また関係者のモチベーション喚起にもなったと考える。
参加者からは「今まで、枯れたら補植、で進めてきたが、今回基礎から学べたのでこれから皆で『育樹』に取り組みたい」との感想もあった。
- ③ わかりやすい詳細な看板により安全で魅力ある散策路になった。

8. 今後の展開

- ① 梅の育成については、さらに専門性の高い講師の招へいを検討（緑化推進協会の利用についても検討、申請等作成の協力）し、専門家のアドバイスを導入して樹勢の充実に取り組めるよう援助していく。
- ② 日永地区内への案内路選定やマップ制作については今後も検討を進めていく。
- ③ 史跡や東海道の案内に関しても、さらに追加整備するものがないか確認し充実していく。
- ④ 地区のホームページが現在刷新中であり、観光ポイントのPRを織り込んでいけるよう、委員会に助言していく。

剪定講習会



案内板設置（事前調査）



案内板設置



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 ふれあい支え合いネットワーク事業

地区名 四郷

1. 望まれる地域の姿

住民同士がお互いに顔の見える関係になり、お互いを理解し尊重し合い、安全に安心して幸せに暮らすことができ、住民誰もが生涯住み続けたいと思う地域になる。

2. 地域の現状

四郷：明治時代には近代産業が発展した地域で風致地区の自然も含め様々な地域資源が存在する。

笹川：大規模集団住宅エリアがあり、外国人居住者が多く(14.9%)、多文化共生が課題である。

高花平小林町：高花平は県下初の住宅団地で高齢化が著しい(39.9%)。昨年度小林町と連合締結。

3. 課題

四郷：この地域には特色ある地域資源が存在し、古くからの住民は地縁によるつながりが強い。しかし、若い世代や他地域からの転入者には認知度が低く、四郷の輝かしい歴史が共有されていない。

笹川：UR等の大規模集合住宅の住民は、近所付き合いがあまりなく、顔の見える関係が作りにくい。一方で高齢化が進み、ふれあいサロンが複数存在するが、活動状況や内容は様々である。

高花平小林町：著しい高齢化率となっている一方で、自治会加入率は98%と非常に高く連帯意識は強い。生活支援組織「ちょっと手を貸して運動」が定着しつつあるが、後継者が見当たらない。

4. 実施内容

四郷：1. 四郷ふるさと事業

①四郷の歴史に関する学習会の開催 ⇒【参加者のべ97名】

- ・《H29.2/4》四郷の歴史を学びながら散策をおこなう歩こう会を実施した。(46名参加)
- ・《H29.2/26》近代を支えた日野百日算(珠算)及び四郷検定に関する学習会を実施した。(51名参加)
- ・《H29.3/7》四郷郷土資料館の敷地内の歴史的な展示物(鬼瓦、歌碑)の案内板を設置した。

②四郷年表リーフレットの作成、配布【両面蛇腹折、A5版各500部】

- ・《H28.9/27》弥生時代から近代産業が発達した明治時代を経て現在に至る四郷の歴史を写真とともに年表のリーフレットを作成し、地元の学校や自治会をはじめ歴史に関心のある人々に配布した。

③四郷ふるさと検定の実施 ⇒【参加者73名(受験者66名)】

- ・《H28.12/27》四郷の歴史を分かりやすくまとめた「テキスト」を作成する。【A4版250部】
- ・《H29.3/5》「テキスト」から検定問題を作成し、「四郷ふるさと検定」を実施した。
- ・《H29.3/10》受験者の成績に応じて、認定書及び賞品を送付した。

笹川：2. 笹川住民のふれあい事業

①ふれあいサロンの情報交換及び周知 ⇒【参加者18名】

- ・《H28.10/6》笹川団地内の8つのふれあいサロンの活動内容や運営状況等の情報交換会を実施した。
- ・《H28.12/27》各サロンの活動状況を紹介した資料を作成し、笹川地域に回覧して周知を図った。

②オープンガーデン事業の実施 ⇒【参加者37名】

- ・《H28.11/23》笹川団地内で庭先に花を育てている人達を対象に、先進地から講師を招いて「オープンガーデン」の講演会を実施するとともに、花が好きな人同志が情報交換や技術向上に向けての話し合いを行い、交流を図った。

③ささまるスカイランタン音楽会の実施 ⇒【参加者150名】

- ・《H29.1/21》笹川の子どもたちと保護者を中心に、LEDライトを付けたヘリウム風船の「スカイランタン」に参加者が願い事を書いて暗闇の体育館内で飛ばすイベントを開催し、ランタンの灯りの下、四日市市移動文化会館【アンサンブル・ロゼ】による音楽会を実施した。

高花平小林町：3. 高花平小林町住民のふれあい事業

①ふれあいコンサート(風の谷オーケストラ)の実施 ⇒【参加者130名】

- ・《H28.10/29》文化祭の前夜祭として「風の谷ウィンドアンサンブル」によるコンサートを実施した。

- ②居場所づくり・生活支援・地域防災に関する活動報告会の実施 ⇒【参加者 45 名】
- ・《H28. 12/3》生活支援組織「ちょっと手を貸して運動」、宅老所「いこいっこ」、地域防災組織「特別防災隊」それぞれの活動報告会を実施し、それぞれの活動への参加を促した。
- ③防災（地震発生後の通電火災対策等）に関する研修会の実施 ⇒【参加者 49 名】
- ・《H29. 1/21》南海トラフ地震に備えての事前対策の重要性について研修会を実施し、その中で地震発生後の通電火災対策や家具の転倒防止対策について周知した。
- ④生活支援作業（草刈り、家具の固定作業等）に関する安全講習会の実施 ⇒【参加者 28 名】
- ・《H29. 2/25》生活支援作業の要望が多い草刈りや家具の固定作業に関する事故を未然に防止するために、専門知識のある講師を招いて安全講習会を実施した。

四郷地区連合：4. 高齢化社会に向けての啓発事業

- ①認知症に関する講演会の実施 ⇒【参加者のべ 219 名】
- ・《H28. 10/20》専門医師の立場から、認知症の基礎を学ぶ講演会を実施した。（102 名参加）
 - ・《H28. 11/9》ケア専門士の立場から、認知症への対応を学ぶ講演会を実施した。（73 名参加）
 - ・《H28. 12/7》認知症本人・家族の立場から、認知症の介護を学ぶ講演会を実施した。（44 名参加）

5. 経費

金額単位：円			
支出内訳		支出金額	支出先
委託料	1.四郷ふるさと事業	498,960	四郷ふるさと実行委員会
	①歴史学習会、四郷検定歩こう会実施 ②四郷年表リーフレット作成 ③四郷ふるさと検定実施		
委託料	2.笹川住民のふれあい事業	496,800	笹川地区協議会
	①ふれあいサロン情報交換会 ②オープンガーデン事業 ③ささまるスカイランタン音楽会実施		
委託料	3.高花平小林町住民のふれあい事業	300,000	高花平小林町連合自治会
	①ふれあいコンサート実施 ②生活支援、居場所づくり活動報告会 ③防災講演会実施 ④生活支援作業安全講習会実施		
委託料	4.高齢化社会に向けての啓発事業	93,200	四郷地区社会福祉協議会
合 計		1,388,960	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
1.四郷事業参加人数	200 人	170 人
2.笹川事業参加人数	200 人	205 人
3.高花平小林町事業参加人数	200 人	252 人
4.四郷地区連合事業参加人数	200 人	219 人

7. 成果	8. 今後の展開
四郷：四郷の歴史や地域資源情報の発信により、住民の郷土愛が高まり、地域が活性化した。 笹川：居場所づくり活動の横の連携及びふれあい事業の展開によって地域への関心が深まり、地域活動が活発し、住民相互の絆が強まった。 高花平小林町：高花平と小林町の住民の合同での事業を実施することで、お互いの連帯意識が高まり共助の意識が芽生えた。 四郷地区連合：認知症への理解を通じて高齢化社会に対応するための地域社会づくりの必要性を地域住民が認識できた。	四郷：四郷の歴史や地域資源情報を次世代に引き継ぐとともに、外に向けて積極的に発信する。 笹川：地域の実情に合わせて、住民主体の現在の様々な活動を発展させ、地域全体のネットワークづくりにつなげる。 高花平小林町：比較的若い世代が多い小林町の住民と合同での事業を実施することで地域が活性化するとともに後継者の育成につなげる。 四郷地区連合：各地域における地域包括ケアシステムの構築につなげる。

【 四郷事業 】

四郷検定歩こう会



四郷の歴史を学ぶ学習会



四郷年表リーフレット



四郷ふるさと検定



【 笹川事業 】

ささまるスカイランタン音楽会



ささまるスカイランタン音楽会（1月21日 西郷地区）
 日が沈んで辺りが暗くなると、小学生と保護者の願い事が書かれたスカイランタン(※)が、笹川東小学校の体育館で一斉に放たれました。参加者は、約140個のスカイランタンがともす温かい明かりの中、「プラスアンサンブル・ロゼ」による音楽会を楽しんでいました。
 ※主にアジアの祭りで見られる熱気球の一種

オープンガーデン事業



【 高花平小林町事業 】

ふれあいコンサート（文化祭前夜祭）



防災（通電火災等）に関する研修会



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	次世代へ～歴史・自然・暮らしをつなぐまち～事業	地区名	内部
-----	-------------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
歴史や自然、暮らしなどの資産を活用した事業を地区が一丸となって実施し、観光資源としての活用も図りながら、地区の活性化が図られている。また、地区住民が参画し作成したものが地区内の行事等で普及・定着し、他地区に誇れるものとなっている。	市内の内陸部に位置し、将来的に人口は増加傾向にある。高齢化率は市内では低い。 従来からの住宅地や新たな住宅開発が多数行われており、新旧住民が混在しコミュニティーの希薄化が進んでいる。
3. 課 題	
地区での一体感をさらに高めるために平成 27 年度に作成した「ふるさと探訪マップ」や「内部の歌」の地域におけるさらなる利活用や地区住民への普及を図ることが必要である。 また、内部地区における暮らしに密着した四日市あすなろう鉄道の存続のため、旧東海道とともに観光資源や地域活動の場として利活用を行うなど、地区としても盛り上げていくことが不可欠である。	
4. 実施内容	
①振付習得講座の開催 昨年度作成した「内部の歌」を自治会で行う盆踊りや夏祭り、各種団体における行事で利活用するため、振り付けを習得した地域住民(婦人会やサークル団体)が講師となり、振付習得講座を実施 (婦人会) 地区市民センターでの講座 6 回(145 名)、自治会等(5 団体)への出前講座10回(240 名) *8自治会の盆踊りや夏祭りで「うつべ音頭」を踊った (サークル団体) 地区市民センターでの講座5回(81名) *文化祭の最後に参加者で「はばたけ！うつべ」を踊った(約 200 名) ②四日市あすなろう鉄道内部駅と小古曾駅のホーム花壇の整備 両駅ホームの花壇整備を行った。 (平成28年 10 月 28 日) 土の入れ替え及び堆肥(37名) (平成28年 10 月 30 日) 花植え(48名) 内部地区の各種団体が連携し、新たな組織を立ち上げ維持管理を実施 ③四日市あすなろう鉄道内部駅の電車発着時における音楽の作成 昨年度に作成した「内部の歌」をオルゴール調に編曲 内部駅待合室に放送設備を設置(平成28年12月15日設置完了) 平成29年3月 4 日開催の「うつべふるさと探訪ツアー」で、お披露目を行った ④四日市あすなろう鉄道内部駅西側の駐輪場にある看板等の更新 「うつべ地区ふるさとマップ(東海道 400 周年記念)」看板の板面を昨年度作成した「内部ふるさと探訪マップ」の内容に更新。また、旧東海道沿い史跡前にある立看板の更新を行う(6基) *平成29年2月24日に設置完了 ⑤うつべの歴史あれこれ(歴史小冊子)の作成 うつべの史跡のなかで著名な人物と史実をまとめた小冊子(うつべの歴史あれこれ)を 3,000 部作成 (11 月 29 日納品) ⑥「うつべふるさと探訪ツアー」の開催 平成29年 3 月4日に「内部ふるさと探訪ツアー」を開催 216名(内部地区177名、地区外39名)が参加 昨年度作成した「ふるさと探訪マップ」や「歴史小冊子」を参加賞として配布、内部地区住民が案内人となり、旧東海道沿いの史跡や四日市あすなろう鉄道の駅舎等を案内。また、豚汁とおにぎりの振る舞いを行った。	

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	駅花壇用資材(花苗、肥料等)	79,732	(株)コメリ
	カラー用紙等	23,427	(有)青商店
	コピー用紙	1,490	(株)四日市事務機センター
	啓発用品(クリアファイル)	38,880	(株)アビ・コミュニティ
	うつべ歴史小冊子印刷	235,440	(株)イヤマ印刷
	ふるさと探訪ツアーポスター	62,640	水九印刷(株)
委託料	「うつべ音頭」振付習得講座	77,000	内部地区婦人会
	「うつべの歌」編曲業務	100,000	うつべ町かど博物館
	「はばたけ内部」振付習得講座	21,000	うつベクインズ
	うつべ地区内看板更新業務	372,600	SS デザイン設計・服部
	ふるさと探訪ツアー開催業務	85,000	内部地区まちづくり推進協議会
備品購入費	放送用設備(内部駅)購入	312,876	教育産業(株)
合 計		1,410,085	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
自治会や各種団体における「内部の歌」の活用団体数	10 団体	10 団体
うつべふるさと探訪ツアー参加者数	200 人	216 人

7. 成果

昨年度、「内部の歌（うつべ音頭）（郷土の歌）」の踊りを習得した団体やサークルが講師となり普及講座を実施した。当初想定していた講座回数より、多くの講座開催依頼があった。また、内部地区で開催されているすべての夏祭りや盆おどり会場、文化祭などの芸能発表（サークル発表、内部中学校吹奏楽部での披露等）で活用された。

このように地域住民が参画をすることにより、住民間の連携が図られ、住民の絆の醸成が図られた。また、暮らしに密着した資源（鉄道、旧東海道）をテーマに「うつべふるさと探訪ツアー」を実施。地区内 177 名、地区外 39 名（東京都、愛知県、滋賀県、近隣市町在住者）が参加。身近な歴史や自然を新たに感じるとともに地域の鉄道に対する愛着心の向上が図られ、他地区からの参加を得たことにより、内部地区への再来訪が見込まれる。

8. 今後の展開

四日市あすなろう鉄道内部駅や小古曾駅のホーム花壇等の整備を近隣住民が中心となり実施できた。

また、花壇の維持管理を地区住民により行う体制ができてきたが、維持管理を継続的に確実に実施していくように、地区の組織や予算措置についての検討が引き続き重要である。

今後は、四日市あすなろう鉄道を活用したイベント等を住民自らが実施し盛り上げていくことにより、わがまちの鉄道を見守る風土の醸成を図っていく。

①振付習得講座の開催（うつべ音頭）



②住民で花壇整備した小古曽駅
（10月28日、30日）



③内部の歌が流れる内部駅



④新しくなった史跡前立看板



⑤うつべの歴史あれこれ
（歴史小冊子）



⑥うつべふるさと探訪ツアー
（3月4日開催）
内部駅を出発し、旧東海道沿の
史跡を地区住民が案内



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算)実績報告書

事業名 塩浜地区の世代間交流活性化事業

地区名 塩浜

1. 望まれる地域の姿

若年者から高齢者まで地域住民が一緒になって塩浜地区の魅力を実感しながらいきいきと暮らす。

2. 地域の現状

近年は少子高齢化の進展も著しく、世代間の交流が希薄である。特に若い世代の地域活動への参画が少ない。

3. 課 題

地区内には当地区の財産ともいえる「塩浜音頭」の踊りがあり、昨年度はこれを復活させ、地区文化祭や学校のイベントを通してその振興を図ったが、地域では若い人向けの新たな踊りへの要望も強く、本年度は塩浜音頭のニューバージョンを制作し地域の魅力に加えたい。

また、地区内に第 1 コンビナートを始め優れた企業や研究機関が立地するとともに、深い歴史のある旧跡等が多くあるにもかかわらず、地区内のそうした財産についての認識はあまり高くない。

当地区は、高齢化率が非常に高く、一人暮らし高齢者世帯や老々世帯も多く、介護予防への意識の醸成や具体的な取り組みが求められる。

4. 実施内容

(1) 郷土芸能振興 ニュー塩浜音頭を制作

- ・多世代間交流を推進するため若年者向けの新たな塩浜音頭の編曲・振り付け創作を行った。
- ・新旧の塩浜音頭が浸透するよう小学校・中学校・各自治会等への出前講習会を 3 回実施し、約 150 名の参加者があった。(塩浜小 3 月 21 日、塩浜中 3 月 21 日、自治会等 3 月 17 日開催)
- ・三浜文化会館で港中学吹奏楽部、四日市吹奏楽団、ダンススクール、塩浜小、塩浜中、大橋学園、ユマニテク医療福祉大学校の協力により新塩浜音頭のお披露目会を開催した。(3 月 25 日 160 名参加)
- ・新旧の塩浜音頭の吹奏楽による CD 50 枚の制作を行い、各自治会・関係機関等に配布した。

(2) 地域の資源 再認識

① フィールドワーク

- ・地域の資源や魅力を地区住民が再認識する取り組みとして、地区内の企業の研究施設等の先端技術の拠点や地区内の歴史的価値のある旧跡等を探訪するフィールドワークを 6 回開催し、226 人の参加があった。(8 月 30 日、10 月 22 日、1 月 19 日、1 月 27 日、3 月 1 日、3 月 18 日に実施
探訪箇所 JSR、味の素、クノール食品、太陽化学、日永浄化センター、みえ水素ステーション四日市、三田埋立地、馳出地蔵堂、磯津漁港等)
- ・塩浜の生きた歴史を次世代に伝えていくために地区の自治会長 3 人を講師として磯津町の変遷をテーマに掲げ、歴史講座を 1 月 17 日に開催し 70 名の参加があった。合わせて、塩浜の歴史に、より関心を持ってもらうため塩浜検定試験を実施した。検定には 42 名の参加者がおり、うち 12 名が満点を取るなど習熟度が高かった。
- ・フィールドワーク参加者が塩浜の歴史をわかりやすく学ぶ資料として「てくてく塩浜」の内容を修正し 200 部増刷した。

- ② 三浜文化会館の開館イベントにおいて地域交流室を会場にマイ・コレクション展を開催し、地区内の知られざる貴重な所蔵品や作品など 16 名の出展者があった。合わせて、川合町の獅子舞披露や写真で見る塩浜の歴史展、気軽に集い談話するスペースとしてふれあいサロンも行い、2 日間で 300 名余の来場者があり会館の周知と地域の住民の交流を図ることができた。

(3) 地域包括ケアシステム構築の推進

- ① 高齢者ができるだけ介護状態にならないよう「地域で暮らす」をテーマに、介護関係の有識者による介護予防講演会を 1 回開催し、53 名の参加者があった。また、認知症予防を始めとする身近で実践的な介護予防教室を 8 回開催し、149 名の参加者があった。

② 高齢者の交流支援

地区市民センターで開催しているふれあいいきいきサロン活動に気軽に参加できるよう、高齢者が座りやすい座敷用いす(10 脚)をセンター和室に装備した。センターで 12 回のサロンを開催し 1,352 名の参加があった。(4 月 15 日、5 月 20 日、6 月 17 日、7 月 15 日等毎月第 3 金曜に開催)

(4) 地域の防災・減災意識の向上

- ・3 連動の地震など大災害時にどう対応するかを地区住民にわかりやすいよう当地域の状況に合わせた内容で、自治会の要請を受け、明るい集会所でも画像等を効果的に映し出せるプロジェクターを導入し、防災出前講座を2回実施した。(5月15日 御薗町1丁目自治会・塩浜本町1・3丁目自治会合同 御薗町1丁目公民館で開催 35人参加、6月19日磯津4丁目自治会対象 磯津公会所で開催 80名参加)
- ・災害時に速やかかつ確実に避難誘導や緊急対応ができるように、避難施設を図示した大型情報記入型防災マップ(1200mm×1800mm)を作成し、塩浜地区センター2階ホールに設置した。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
講師報償費	塩浜地区歴史講座	33,000	地元の有識者
委託料	若者向けに編曲と振付け作成	320,000	塩浜まちづくり協議会
	新塩浜音頭踊り指導	200,000	塩浜まちづくり協議会
	新旧塩浜音頭 CD 作成	50,000	塩浜まちづくり協議会
	フィールドワーク企画・実施	480,000	塩浜まちづくり協議会
	コレクション展示会・サロン開催	100,000	地区社会福祉協議会
	介護予防講演会・教室開催	50,000	(社福)風薫会
	防災資料の作成	100,000	地区防災協議会
備品購入費	サロン用座敷いす	48,600	(有)山川家具店
	プロジェクター及び付属品	83,700	(株)四日市事務機センター
合 計		1,465,300	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
フィールドワーク参加者	180 人	226 人
介護予防教室参加者	200 人	202 人

7. 成果

- ・郷土芸能振興では、ニュー塩浜音頭の制作により新旧合わせて、小・中・高・大学生など昨年より広い世代に関心を持ってもらえた。
- ・地域の資源 再認識では、各事業の実施を通して、普段立ち入れない企業等を訪問し、塩浜の魅力や歴史について住民の認識がより深まった。
- ・地域包括ケアシステムの構築では、介護予防や住民同士の交流の推進など高齢者の元気の暮らしの継続に資する事業が実施できた。
- ・地域の防災意識の向上では、自然災害への対策として自助意識の醸成を進めた。

8. 今後の展開

当初の目標は達成できたが、各事業の参加者は重複している傾向があった。特に高齢者に偏りがちで広い世代の地域活動への参画につながる事業ができるように若年層の意識の把握に重点を置いていく。

ニュー塩浜音頭の振興では、一過性では効果が乏しいので継続的に地域に浸透する機会を設けていく。

また地域包括ケアシステムの構築に向けて、当地区で住民主体のサービスを進めていくには、現状では担い手が不足しており、効果的な人材の発掘・育成に取り組んでいく。

ニュー塩浜音頭 振付け 練習風景



ニュー塩浜音頭 伴奏 練習風景



フィールドワーク 1 回目
海上から塩浜地区を見学



三浜文化会館 マイコレクション展・
写真で見る塩浜の歴史展



塩浜歴史講座



介護予防講演会



防災出前講座 磯津町



ふれあいサロン「ほっと」



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	自然・文化を大切に～つながろう小山田～事業	地区名	小山田
-----	-----------------------	-----	-----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
現在まちづくり構想策定委員会で資源の掘り起こしを行っているが、あまり知られていないところが沢山あり、この事業により地域住民の知識が増やされ地域間交流が活発化する。	当地区の面積は、18.35 ㎥で市内2番目の面積であり地区内に4本の河川が流れており、V字谷も多く南北の移動に苦労しており、自治会の交流も少なく地域活動の参加者も固定化している。

3. 課題
地区内において各町の名所・旧跡等の知識が乏しく、ふるさとマップを各戸に配布して地区内のことを知ってもらう事により小山田地区のまちづくり構想にも役立ち、地区外へもアピールできる。 また、ふるさとマップを利用したウォークラリーを行うことにより、地域住民の知識及び交流も一層深まる。

4. 実施内容
(1) ふるさとマップの作成及び案内看板設置 ふるさとマップをB2カラー両面印刷とし、外出するのに持ち運びに便利なジャバラ折と自宅で見ると見やすいB5仕上げの2種類を作成し、地区内の各戸・小学校・中学校等関係機関に配布する。 また、小山田地区の土砂災害の危険箇所をマップに載せて市民への周知を図った。 (6,000部作成、地区内全世帯3,400部、小中学校部800部、ウォークラリー、関係機関800部配布) おやまだ桜まつりをはじめ、文化祭及び地区の行事は、センターでの開催が多いため、案内看板を地区市民センターに設置して情報の共有を図った。
(2) ふるさとマップを活用したウォークラリーの開催 ふるさとマップを利用して、ウォークラリーを行うことにより地区内の名所・旧跡等に関する知識が豊かになることにより、地区内の認識と新しい発見が見いだされ地域交流が進んだ。 (平成28年12月4日開催、参加者201名)

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	カラーペーパー、電動ポット	32,527	(株)香久屋
	純白タオル、ボールペン	81,084	(有)青商店
	寸胴鍋	17,550	スズカン(株)
	輪転謄写機インク、マスター	19,504	(株)四日市事務機センター
	カーストップ	9,522	(株)コメリ
	プロパンガス	2,700	(有)名倉燃設
	ふるさとマップ、クリアファイル	953,964	富士印刷(株)
委託料	案内板データ作成	42,660	富士印刷(株)
	案内板製作設置	305,208	常磐工芸(株)
合 計		1,464,719	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
ウォークラリー参加者数	100 人	201 人

7. 成果	8. 今後の展開
地区内の住民がふるさとマップを見て各町の名所・旧跡等の知識が増えた。 小山田地区の土砂災害の危険個所の周知が図られた。 また、ウォークラリーを行うことにより地域住民の交流を活発化させ住民間の連携が図られ、地域の絆の形成に繋がった。	ふるさとマップによる資源の掘り起こしを行い小山田地区の将来と実現したいまちのイメージを考える参考になったことや、地区市民センターの前に案内看板を設置したことにより、地区の情報共有が図られたことから、さらに、今後も地域の自主自立と住民間の連携を高められるよう取り組んでいく。

MAP編集委員会
(編集委員会議)



(郷土史愛好会の話进行)



案内板除幕式
(案内板除幕式)



(ウォークラリー大会参加者のみなさんと)



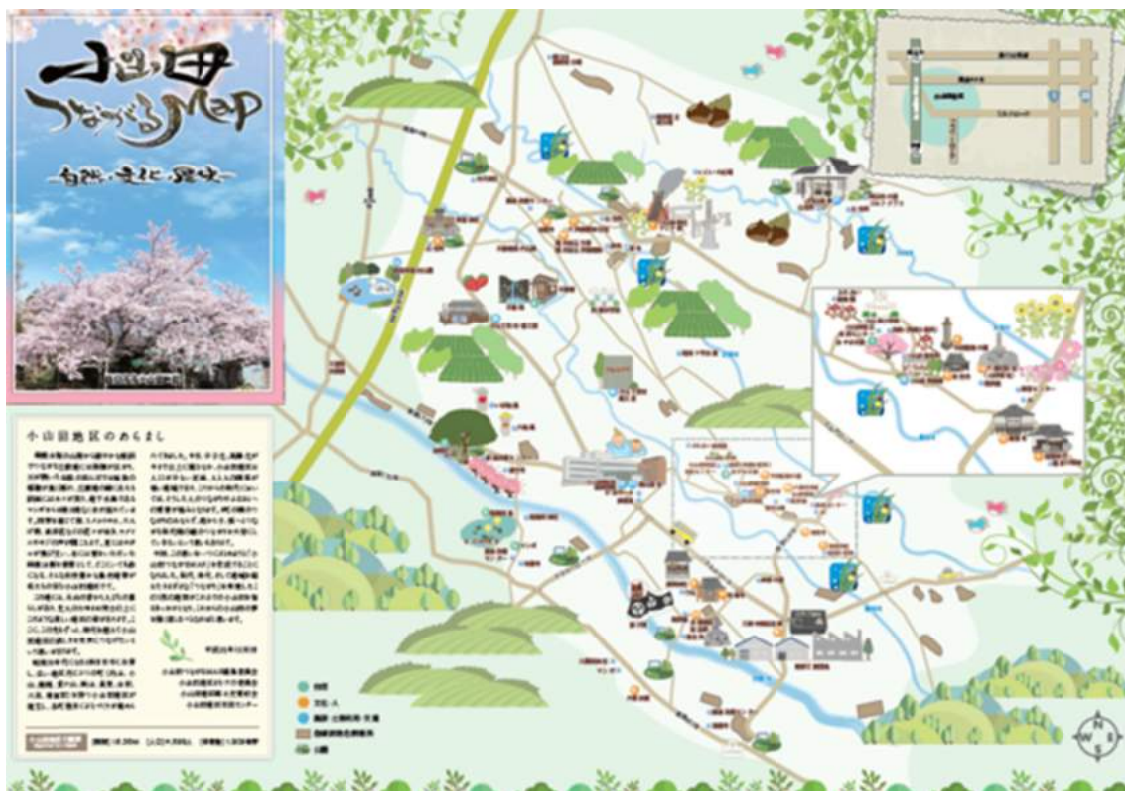
ウォークラリー大会
(ウォークラリー大会スタート！)



(ウォークラリーのゴール後は、ぜんざいを
食べながら、和気あいあいと交流)



MAP (表)



MAP (裏)



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	人材発掘・育成、ネットワーク推進事業 ～地域の絆を深め、共に支え合えるまちづくり に向けて～	地区名	川島
------------	--	------------	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
住民同士が様々な活動を通して連携を深め、地域に誇りを持ちながら、安心して住み続けられる地域。	・住民の高齢化。特に昭和40年代に造成された団地では急速な高齢化が進んでいる。 ・豊かな自然環境が残っている。 ・地域住民によるまちづくり活動は活発に行われているが、後継者不足に悩んでいる。 ・地区の大きな産業である農業従事者の高齢化に伴い、農地(竹林含む)の耕作放棄が増加している。
3. 課 題	
現在、まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化しており、今後もまちづくりの活動を継続、発展させていくためには、特に、女性や子どもを含めて若い世代の住民を巻き込み、多様な人材が意思決定の場に参画できる体制づくりと多様な主体が協働で事業実施にあたっていくための環境づくりが必要と考え、平成26年度より同事業に取り組んでいる。 その成果として、2年間でまちづくり活動に関わるボランティアに38名が登録いただき、既に様々な活動にご協力いただいている。その中には、中学校の生徒たちも含まれており、今後に希望が持てる場所であるが、子育て世代(30～40代)は、関心はあるけれども時間に余裕が無いという人が多いというアンケート結果も出ている。また女性の人材育成として取り組んでいる「おしゃべり女子会」でも同様のアンケート結果が見られる。こうした世代がみんなで少しずつまちづくりを担っていけるような仕組みづくり、そうした人材を早期に発掘し、動ける余裕ができたときに活躍してもらえるような仕組み作りが必要である。 また、高齢化の問題は、当地区の主な産業である農業にも大きな影響を及ぼしており、年々耕作放棄地が増加している。健全な農地を維持し、継承していく人材の育成も大きな課題となっている。	
4. 実施内容	
1. 農業体験教室の開催 川島土地改良区内の農地を活用し、川島小学校の生徒及び一般参加者で、ダイコンの植え付けから収穫までの農業体験を行った。(9月 種まき、10月 間引き、11月 収穫、延べ参加者512人) 2. 「地域人財バンク」の設立 高齢者などの支援を必要とする人を地域全体で支え合うための仕組みづくりに対して支援を行い、新たな地域の助け合い組織「ちょボラ かわしま」として立ち上げた。(登録者数:支援者48人、利用者16人) 3. 里山フェスタ・風揚げ大会の開催 里山保全について考える場、まちづくりボランティアの活動の場としてだけでなく、新たな人材発掘の場、川島の農業について考えてもらう場として開催。地区内の各種団体のほか、NPOや四日市大学、小・中学校などと協働で実施した。(里山フェスタ:11月に開催、参加者約600人、風揚げ大会:1月に開催、参加者約250人) 4. 「おしゃべり女子会」及び「ボランティア養成講座」(託児付)の開催 女性人材の発掘・育成のため、昨年度に続き「よってたかって・おしゃべり女子会」を開催。今年度は「防災」をテーマとし、これまでの受講者から企画委員を募り、企画委員会で企画・運営している。(10月～3月、月1回の全6回、延べ参加者142人) また、次年度以降の自主運営に向けて、託児ボランティアを養成するための講座を開催した。(9月～10月、全4回、延べ参加者67人)	

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	託児ボランティア養成講座講師	55,000	大学教授ほか(4回)
	おしゃべり女子会講師	68,000	NPO法人代表ほか(6回)
需用費	カラー用紙等	36,935	(有)青商店
	印刷機インク、用紙	41,966	(株)四日市事務機センター
	事務用品	2,774	伊勢オフィスクリエイト(株)
	事務用品等	13,820	(株)コメリ
	講師用飲料水	924	四日市市社会福祉協議会
	講座用資材	11,680	(株)常磐
	講座用資材	5,464	(株)白揚ブックセンター
	講座用資材	7,183	イオンリテール(株)
	講座等資材	23,082	(株)香久屋
	教材印刷	27,756	フコク印刷工業(有)
	記録用機材	37,584	(株)ヤマダ電機四日市営業所
	事業啓発用品	34,992	(有)博進堂四日市支店
	事業用機材	75,250	(株)青商店
委託料	農業体験教室開催	200,000	川島地区まちづくり協議会
	里山フェスタ、風揚げ大会開催	380,000	川島地区まちづくり協議会
	一時託児業務	82,723	四日市シルバー人材センター
備品購入費	講座用機材	58,860	教育産業(株)三重営業所
	事業啓発用機材	69,120	(有)博進堂四日市支店
合 計		1,233,113	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
農業体験教室、里山フェスタ等 延べ参加人数	900 人	1,362 人
講座等参加者のアンケート満足 度	90%	92%

7. 成果

- 子どもから高齢者までが楽しめるイベントや農業体験の場などを通して、住民同士の交流を図るとともに、まちづくり活動への関心や地場産業への理解を高めてもらった。
- 来年度から始まる地域包括ケアシステムも見据え、これまでのボランティア登録制度を発展させ、地域での支え合い組織として新たに立ち上げた。
- 3年目を迎えたおしゃべり女子会については、今後の自主運営に向け、これまでの受講者たちで企画運営をしてもらったほか、託児ボランティア養成講座を通して、自主運営のための人材育成を図った。

8. 今後の展開

これまでの活動を通して、発掘した新たな人材を、今後いかにうまく活用し、定着させていくかが課題である。そういった方々が活躍できる環境づくりや仕組みづくりを、今後も引き続き進めていく必要がある。

また、地域住民で支え合える環境づくりを一層進めていくためにも、新たに立ち上げた人財バンクの更なる充実を図っていく必要がある。

農業体験教室



里山フェスタ



凧揚げ大会



人財バンク（ちょボラかわしま）



託児ボランティア養成講座



おしゃべり女子会



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	マイスター・アドバイザーによる次世代育成事業	地区名	神前
-----	------------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域活動や地域社会づくりに多様な世代が参画できる地域になること。	1. 地域の指導的立場にいる人材が高齢化する反面、次世代を担う人材の発掘・育成ができていない。 2. マイスター・アドバイザーが活動する場の設定がなく、地域の団体に存在も知られていない。
3. 課題	
地域社会づくりや防災・減災の重要な担い手としての役割が期待される「地域づくりマイスター」や「減災アドバイザー」が地域で認知され、諸団体と連携しつつ活動ができるような土壌を作っていく必要がある。	
4. 実施内容	
1. マイスター・アドバイザースキルアップ事業（任命者の連合自治会に委託） ◇平成 28 年 8 月から原則毎月 1 回会議を開催、計 6 回開催 開催日：8 月 24 日、9 月 28 日、10 月 17 日、11 月 16 日、1 月 18 日、2 月 20 日 参加者：マイスター 2 名、アドバイザー 3 名、連合自治会 4 名、館長、地域マネージャー 今後の方向性やスキルアップための研修会の内容、実施の際の役割分担等について協議。 ◇【11 月 30 日、1 月 24 日、3 月 22 日】四日市大学松井真理子教授との懇談会開催 参加者：マイスター 2 名、アドバイザー 3 名、自治会長 10 名、館長、地域マネージャー マイスター 2 名と自治会長 1 名が活動上の悩みやまちづくり、次世代育成に関する課題を発表し、松井先生の助言を受けながら、題解決に向けて話し合いを行った。自治会長が他の団体の委員を兼任することが多い神前地区の現状についての見直しの気運が高まると共に、マイスター、アドバイザーに対する自治会長の期待の大きさが感じ取れた。 ◇【12 月 17 日】マイスター企画の講演会開催 参加者：マイスター、アドバイザー、自治会長、社協役員、民生委員、まちづくり推進委員会委員、老人クラブ役員、館長、地域マネージャー等 55 名参加。 講師：林家ライス・カレー子さん 「高齢化社会に向けたまちづくり、わたしができること、あなたができること」との演題で、身近なところから地域との関わりを持つことの大切や近隣の助け合いの重要性について 90 分の講演後、地域活動に消極的な人や若い世代の働きかけの在り方について 30 分程質疑あり。リラックスして聞ける中にも気づかされることが多かったとの参加者の感想であった。 ◇【1 月 25 日】アドバイザー企画の視察研修：名古屋市港防災センター視察 参加者：マイスター、アドバイザー、自治会長の計 10 名、災害に対する普段からの物的・精神的な備えの重要性を認識できたとの感想が多かった。 ◇【3 月 21 日】マイスター企画の視察研修：京都市東山区六原地区 ⇒ まちづくり推進委員会定住対策部会で取り組んでいる地区内の空家対策活動の参考にすべく、先進地域視察を行った。 参加者：マイスター、アドバイザー、自治会長、まちづくり推進委員会定住対策部会委員等計 10 名 空き家対策をひとつのツールとしたまちづくりの方法について、大変参考になったとの感想が多かった。	
2. 地域団体活動紹介事業（地域社会づくり推進委員会委託） 地域住民に関心と理解を持ってもらうことを目的に、地域の主要団体（連合自治会、地区社協、同推協、民児協、まちづくり推進委員会等）の活動を逐次掲載し、閲覧できるよう HP の改修を行う事業で、各団体をもって構成する地域社会づくり推進委員会に委託する。また、HP の管理運営をマイスターができるような体制づくりを目指した。すでに一部の自治会、同推協、社協、まちづくり推進協議会等の団体が活動内容の掲載を開始している。 ◇【12 月 13 日】管理者向け説明会（3 名、館長、地域マネージャー） ◇【12 月 20 日】第 1 回 HP 編集者講習会 各団体から選出された 1～2 名を対象に、掲載方法等を説明。参加者 10 名。 ◇【1 月 26 日】第 2 回 HP 編集者講習会 参加者 10 名。	

3. マイスター・アドバイザーによる女性地域活動参画推進事業

- ◇美里ヶ丘自治会長(女性)を中心に9名の女性グループが立ち上がり、平成28年10月から原則毎月1回会議を開催。開催日:10月19日、11月21日、12月19日、2月27日。
- 地域の防災・減災をテーマに研修等を開催。(オブザーバーとして、連合自治会長、美里ヶ丘民生委員(女性)、美里ヶ丘副自治会長、館長が毎回参加) 非常食の試食や簡易トイレの組立や汚物処理の方法等を実施したり、避難の方法や避難所の在り方について話し合いを行った。
- ◇【1月30日】第1回勉強会:女性の視点からみた防災についてNPO法人四日市男女共同参画研究所坂倉加代子代表の講演と懇談会を開催(参加者15名)。自分達の安全を確保するためにも、いかに女性の参画が不可欠なのかを認識した。
- ◇【3月27日】第2回勉強会:坂倉加代子氏との懇談会(参加者14名)
- 1月30日の勉強会を踏まえて、神前地区災害対策本部・避難所運営マニュアルと市指定避難所に設置されている防災倉庫の備蓄品について、女性の視点から気づいた事を発表し、意見交換を行った。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	マイスター・アドバイザースキルアップ事業	450,000	神前地区連合自治会
	地域団体活動紹介事業	470,000	神前地区地域づくり推進委員会
報償費	女性地域活動参画事業	38,000	講師（2回）
委託料		2,093	シルバー人材センター
需用費		44,031	イオンリテール(株)他
合 計		1,004,124	

6. 目標及び実績

1. スキルアップ事業

- ①指標:マイスター・アドバイザー会議の開催 目標:会議8回開催 実績:6回
- ②指標:マイスター・アドバイザーが主体的に開催する研修会や視察研修の開催 目標:3回開催
実績:講演会1回、懇談会3回、視察研修2回 計6回

2. 地域団体活動紹介事業

まちづくり推進委員会、連合自治会、地区社協、同推協、民児協等の団体がHPに活動状況を掲載できるようになること。 目標:掲載団体数8 実績:掲載団体数8

3. 女性地域活動参画事業

- ①10名程度の核となるグループの組織化。
- ②勉強会の定例化 目標:勉強会の開催6回 実績:構成員のみによる勉強会4回
講師を招いての懇談会2回

7. 成果

1. マイスター・アドバイザーの存在と役割を諸団体が認識するようになった。
2. マイスター・アドバイザーの地域貢献意識の醸成。
3. 女性の地区防災への参画でのきっかけづくり。

8. 今後の展開

1. マイスター・アドバイザーと諸団体との連携体制づくり。
2. マイスター・アドバイザー自身による次世代育成のための講演会や講座の企画と開催。
3. 新HPの運用による諸団体の活動の活性化と地域住民の理解の広がり。
4. 女性グループの育成。今年度は話し合うこと重点を置いたが、今後はワークショップ形式の体験学習の場を多く設定していく。

【マイスター・アドバイザースキルアップ事業】
H29年2月22日 名古屋市港防災センター視察



【地域団体活動紹介事業】
新しいホームページ



H29年1月26日開催第2回講習会



【女性地域活動参画事業】

H29年1月30日 第1回講師との懇談会



H29年3月27日 第2回懇談会



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 心のかよう緑豊かなまち桜へ

地区名 桜

1. 望まれる地域の姿

桜地区では智積養水や一生吹山、矢合川で整備・保存活動が行われており、今後も自然を活かした、地域住民の憩いの場、ふれあいの場として、利用できることが望まれている。

また、地区の高齢者が安心して生活できる見守り体制や各種活動を継続実施する人材確保のための方策の構築が望まれている。

2. 地域の現状

智積養水や一生吹山、矢合川では、自然環境の保存活動が行われている。また、他の地区イベントでも、利用者見学者の方への案内やイベント情報の発信が乏しく、会場への道に迷う方もみられる。

桜地区でも、高齢者の人口比が高く、徘徊や、急病などの時の対応や各種事業の継続実施に苦慮している状況である。

3. 課題

住民の方が智積養水や一生吹山、矢合川で自然環境の整備・保存活動やイベントを行っても、情報の発信や案内が不足しており利用者・見学者が迷うことがみられる。また、桜花台地区では竹藪を利用した散策路の設置も計画されており、昨年整備を行った矢合川の花壇整備から散歩道が繋がるよう期待されている。最近では桜地区の多くの山で、竹が繁殖し竹害も発生してきている。

桜地区でも、高齢者の人口比が高く、徘徊や、急病などの時、家族や親戚などへの連絡先が解らずその対応や各種事業の継続実施に苦慮している状況である。

4. 実施内容

1. 環境整備事業

【竹害対策事業】

桜地区でも竹の繁殖が進み、竹害が発生しており、竹害対策やマンネリ化してきている地区のイベントに変化が起きることを期待し、竹灯りと夜空の観望会を11月23日に桜地区市民センターで行った。

当日は、約300名と多くの一般参加者があり、準備は6月頃から行い、1m程度の竹に約400個から700個の穴をあける作業を100本ほど行った。作業は、地区住民の方6名の協力を得て進め、イベント当日は25名のボランティア(自治会・みどりの少年隊・地区の有志)の協力を得て、実施した。

【花壇整備事業】

昨年度、矢合川付近へ120mの花壇を整備し本年の花の植栽を行ったが、その参加者の多くは、たのし会(老人会)約40名が主体で、今年度、管理機を利用した準備作業は、例年の作業に比べ楽であり、今後の継続も、やり易くなったという声があった。

【散策路整備】

桜花台地区では竹藪の中を通る散策路を計画しており、本年度は11月10日と12月6日に、延べ15名で竹藪や樹木の枝掃いを行い、ウッドチップでチップ化し散策路へ敷き詰め、緩衝材や防草材として、竹や木を捨てることなく有効に再利用し散策路の整備を進めた。今後も、矢合川の花壇の散策路と繋げ、皆さんが利用しやすい散策路となるよう今後も整備を進めていく予定。

2. 人材発掘育成事業

【人材発掘事業】

桜地区では、地区住民の高齢化に伴い、ボランティアの人数も減り、特にボランティア協会では、現状の運営に支障をきたし、将来が見通せない状況にあり、人材を発掘し地域力をアップするため、社会福祉協議会やボランティア協会を中心に、人材発掘事業を行う。

4回の講座を実施し、1回目は12月10日に100名が参加し、桜地区の現状を知り、問題点を考える講座を開催した。講師は、四日市大学の岩崎学長で、直下型の高齢化による今後の地区の状況の予想が講演され、その後、連合自治会長、民生児童委員協議会長・社会福祉協議会長・ボランティア協会員などのパネラーによるディスカッションを行い、桜地区の問題点が提案され、のちに開催された講座3回(延べ166名が参加)で、対応策が討議され、その対応策にボランティアとして参加されるような方が増えるよう講座を進めた。

【看板製作事業】

一生吹山や矢合川でのイベントや整備・保存活動の案内や情報発信のための看板作成については、保存活動が行われている矢合川の花壇への設置を行った。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	看板製作用資材	45,576	(株)鍵助商店
	散策路整備・花壇整備用資材	71,442	(株)コメリ
	竹害対策・散策路整備用資材	418,829	(株)LIXIL ビバ
	花壇整備用資材	65,329	馬場農機
	看板製作用資材	67,068	(有)青商店
	散策路整備・花壇整備用燃料	19,150	(株)JA サービス四日市
委託料	人材発掘育成事業委託	100,000	桜地区社会福祉協議会
備品購入費	看板製作用器材	351,000	(株)四日市事務機センター
	看板製作用器材	69,120	(有)博進堂
	花壇整備用管理機	86,940	馬場農機
	看板製作用器材	30,218	(有)青商店
	散策路整備用草刈機	49,680	(株)大久保商会
合 計		1,374,352	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
環境整備活動イベント参加者	350 人	400 人
ボランティア発掘人材育成講座	3 回以上	4回

7. 成果

【竹害対策事業】

参加された皆さんに好評で、竹灯りの作り方を聞かれたり、来年の各地区の夏祭やイベントへの展示を依頼されたり、地区のみなさんのやる気に繋げることが出来たと感じた。

【花壇整備事業】

放置されていた桜駅北側の花壇、地権者は道路管理課、管理者は市街地整備公園課の整備(12 月 14 日4名)が行われ、今後もこういった気運が増えるよう PR していきたい。

【散策路整備】

散策路整備が進むにつれ、散策路を利用される地区住民の方増えてきている、整備をしていただく方々もやりがいを持って実施しているように感じるので、今後も整備の促進を図っていただきたい。

【人材発掘事業】

4 回の講座や講演会が開催され、延べ 266 名の方が参加、これにより、ボランティアの必要性の理解が地区内に広まったので、今後のボランティアの人材確保に繋げたい。

【看板製作事業】

看板設置により整備・保存活動の内容を地域住民に知ってもらいきっかけとなった。

8. 今後の展開

竹灯りを各地区の要望に沿って開催し、賑わいの場をなるべく数多く作っていく。

智積養水、一生吹山、矢合川や花壇などでの整備保存活動が継続されるよう地域に PR し、活動への参加者を増やし継続していく。

ボランティアの人材発掘育成は高齢化した地域を活性化するための重要な課題であるので、人材確保のため今後も続けていく。

環境整備事業（竹害対策事業）



竹灯り 100本を製作

環境整備事業（花壇整備事業）



桜駅北口花壇を整備

環境整備事業（散策路整備）



桜花台散策路整備で発生した樹木をチップ化して散策路に散布

人材育成事業



12月10日 四日市大学の岩崎学長による高齢化問題についての講演、桜地区の課題についてのセミナーを開催

平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 もっと住み続けたくなるまちづくり

地区名 三重

1. 望まれる地域の姿

住民が自らの暮らす地域に愛着を感じ、世代を超えた交流が盛んで、安心して住み続けられるまちづくりに連帯して取り組んでいる。

2. 地域の現状

高齢化が進む一方、子供たちを含めた若い世代と高齢者が交流する場が減少し、高齢者が住み続けていく上での課題も顕在化してきている。

3. 課題

住民の高齢化により地域行事の多くが取りやめとなっていく中、知識や経験を有する高齢者世代と若い世代が交流する場が少なくなり、住民間の連帯感が弱まってきている。また、三重団地など高齢者世帯が多く暮らす地域を中心に、高齢者が住み続けるための環境整備が急務となっている。

4. 実施内容

(1) 郷土資料館活性化事業

郷土資料館が地域住民にとってより身近な存在として愛されるよう、築後 100 年という節目の年に、外壁に切り絵を投影する「野外幻灯」や、地元小学生作製の紙袋ランタンの展示を行うなどの記念イベントを行った。また、他地域資料館の運営状況等調査として歴史民俗資料館「近江日野商人館」を視察した。

・築 100 周年記念イベント(12 月 10 日開催 参加者 1,200 人)

(2) ふれあいまちあるき三重西マップ作成事業

地域住民の防災・減災にかかる意識及び知識の向上を図るため、防災の視点を加味したまちあるきの実施及び「ふれあいまちあるき三重西マップ」の作成を行った。

・防災の視点を加味したまちあるき(6 月 23 日・10 月 17 日・11 月 20 日・11 月 29 日開催 参加者 193 人)

・ふれあいまちあるき三重西マップの作成(2,000 部、三重西小学校区内各戸配布)

(3) 三重西 3 世代交流フェスタを通じた啓発事業

平成 29 年 4 月からの生活支援・介護予防事業が円滑に行われることを目的に、地域包括ケアシステムの周知を三重西 3 世代交流フェスタ会場内にて行った。

・介護予防、生活支援事業の取り組み周知(8 月 13 日開催 参加者 2,000 人)

(4) 安全なまちづくり啓発事業

防災に対する意識の向上を図ることをもって安全なまちづくりに関する視点を養うため、小中学生及びその保護者を対象とした専門家による講演会を開催した。

・小学生及びその保護者を対象とした講演会の開催(9 月 11 日開催 参加者 281 人)

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	郷土資料館活性化事業委託	594,000	三重郷土資料館保存会
	ふれあいまちあるき三重西マップ作成事業	313,200	三重西小学校区まちづくり構想委員会
	三重西 3 世代交流フェスタを通じた啓発事業	297,000	三重西 3 世代交流フェスタ企画会議
	安全なまちづくり啓発事業	216,000	三重北小学校区連合自治会
合 計		1,420,200	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
郷土資料館来館者数	600 人	1,200 人
まちあるき参加者数	200 人	193 人

7. 成果

今回実施したいずれの事業も、当日の参加者はもちろんのこと、スタッフも地区住民のあらゆる年代の方に数多く参加いただいた。このことから「世代を超えた交流の場」を作り出すことができ、住民間の連帯感を強める一助となった。

8. 今後の展開

住民活動が活発な小学校区から、他の小学校区が学んでいただけるような場の創出に向けて働きかけを行っていききたい。もって、三重地区全体として、まちづくりに対する住民の関心を高めていきたい。

郷土資料館活性化事業



ふれあいまちあるき三重西マップ作成事業



三重西3世代交流フェスタを通じた啓発事業



安全なまちづくり啓発事業



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 「あがたの課題をみんなで解決」 作戦

地区名 県

1. 望まれる地域の姿

良好な地域活動が楽しく持続し、魅力ある環境を維持する街

2. 地域の現状

- ・人口が逡減し、高齢化が進行している。
- ・まちづくりの先導的取り組みが展開されたが、活動の維持が課題となっている。

3. 課 題

まちづくりの担い手が、人口流出・高齢化により減少しており、地域活動への新たな参加のシステムや担い手の負担軽減を図ることが地域の課題となっている。

4. 実施内容

1. 地域の情報発信・交流の環境づくり

地域の ICT 化のため、タブレットやスマホを使った facebook 講座を開催して、最初にタブレットやスマホの活用方法を学び、最後に facebook の初歩的な活用方法を学んだ。facebook を活用したまちづくりを進めるため、県地区まちづくり委員会などの facebookpage への情報提供を行い、facebook への「いいね」、コメント をきっかけに、地域活動と疎遠だった層の地域への関心、参加意欲の向上を図る。さらに地域外からの関心も呼び込んで交流につなげた。

- ・ ICT 活用講座 (H28. 12/3, 15, 22, H29. 1/12, 19, 26) 6 回で参加者述べ 44 人

2. 地域の課題の解決策を考える

地域の課題を整理し、課題解決のためのデザインを講座開催や大学の研究会(四日市大学、慶応義塾大学)との協働事業、facebook による交流で結ばれた「縁」を活用しながら考えた。

(1) グリーンパーク岡山の活性化

アウトドア体験の場としての可能性探究

- ・ 歴史の話(古窯址群)と勾玉づくり体験 (H28. 8/10) (三重県埋蔵文化センター出前講座)

参加者 小学生 16 人 保護者 7 人

- ・ 小学生のプチキャンプの開催 (H28. 8/27~28) 参加者 小学生 15 人 大人 6 人

- ・ アウトドア&遊び&防災イベント「あがたであそうぼうさい」開催 (H28. 11/19)

参加者 小学生 60 人 保護者等 50 人

(2) 竹谷川・大口川周辺の環境整備

四日市大学武本教授の研究会との水質調査 (H28. 5/27, 8/22, 11/22, H29. 2/17)

調査結果報告会 (H28. 12/15) 竹谷川の水質は上の養豚場へ地域と行政からの働きかけで浄化槽が設置され、水質が改善された。

(3) オープンガーデンの普及のため先進地視察と組織化

- ・ オープンガーデンの先進地の熊野市を 10 人で視察 (H28. 10/29)

- ・ 「あがたグリーンガーデンの会」の名前で、13 人で組織の立上げ (H29. 1/13)

- ・ 試験的にオープンガーデンを開催(平尾町会員宅)して、全会員で訪問して情報交換 (H29. 3/18)

- ・ 県地区にオープンガーデンの普及に向けて PR と会員募集のチラシ (1,000 部)を作成後、地域の各種団体等へ配布

(4) あがた音頭・あがた讃歌で地域の活性化

前年度に復活したあがた音頭と新曲あがた讃歌を文化祭、くぬぎの木在宅介護サービスセンター、あがたハイツ盆踊り、竹谷川の桜まつり、グリーンパーク岡山の夏祭り等で披露

※ 館長権限予算としては関連事業を展開

- ・ 歴史探訪ウォーキング (H28. 10/22) 参加者 37 人

- ・ 県地区歴史講座 (H29. 1/28, 2/25, 3/19) 参加者 13 人、12 人、6 人

あがた讃歌に登場する歴史人物の講座を開催し、地域への郷土愛の醸成に努めた。

- ・ 文化祭での披露に向けた振付講座開催

(5) 慶應義塾大学との域学連携事業（県地区・富洲原地区で）（H29. 2/21～24）

地域住民と慶應義塾大学環境情報学部・総合政策学部の教授・准教授・学生（計 16 人）が交流
[県地区では]H29. 2/21～22

- ・四日市公害と環境未来館や四日市ふるさとファームを見学、里山活動や郷土料理（肉めし）を体験、八千代工業や加藤牧場を見学、竹谷川周辺と空き家・空き店舗を探索
- ・メリノール女子学院高校 1・2 年生 18 人と進路や地域の活性化について意見交換
- ・大池中学校で主に学校等での防災の取組みについて意見交換
- ・ドローンによるグリーンパーク岡山を中心に周辺を空撮
- ・「空き家を利用した若者の居場所づくりと防災」「自然を生かした憩いの場づくり」「里山保全活動などの担い手不足や古民家再生」のテーマで 3 グループに分かれて地域住民代表 9 人と意見交換

【学生 3 グループからの提案発表内容】 H29. 2/24

- ① 「オルタナティブ教育（無認可の小学校）」
農業を通して生きる力や人間力の向上、認定試験のある小中一貫の学校
- ② 「グリーンパーク岡山の竹と竹谷川の魅力発信」
秋に竹を使った灯籠流し、竹谷川に竹の橋や竹のベンチ、環境教育
- ③ 「セカンドスクール（小中学校対象の宿泊体験型授業）」
農業体験、工場見学、自然体験（桜やホタルなど）、天体観測

5. 経費

金額単位:円

	支出内訳	支出金額	支出先
報償費	ICT 活用講座	50,000	専門家講師
	アウトドア防災教室	44,000	専門家講師
	アウトドア防災教室	22,000	県地区女性防災クローバー
	アウトドア防災教室	30,000	グリーンパーク岡山を愛する会
	あがた歴史講座	45,000	専門家講師
	歴史ウォーキング	15,000	専門家講師
	域学連携事業	298,320	慶応大学一ノ瀬研究会
	あがた音頭踊り指導	96,000	県地区社会福祉協議会
需用費	里山体験等資材	44,961	(有)青商店
	里山体験等資材	27,400	グリーンパーク岡山を愛する会
	アウトドア防災他防寒着	68,040	(株)コンツナ
	域学連携電子会議資機材	35,424	(有)コム・イン三重
	講座用教材	6,500	一恵商会
	用紙	3,725	(株)四日市事務機センター
	防災啓発資材	9,552	イオンリテール(株)イオン四日市尾平店
	講座用資材等	49,362	(有)萩事務機販売
	会員募集チラシ印刷	20,196	フコク印刷工業(有)
	講座用資料	1,200	農業センター
役務費	傷害保険料	14,850	(有)ジャパン総合プロ
委託料	指導員派遣	63,000	三重県キャンプ協会
	運行管理業務臨時業務員	30,919	(株)セノン
備品購入費	講座用プロジェクター	74,520	(株)四日市事務機センター
旅費	熊野市視察	7,400	センター職員
使用料及賃借料	バス借上げ	88,794	(株)グリーントラベル
	合 計	1,146,163	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
県地区の facebook page へのいいね (いいねコメントをきっかけに地域活動と疎遠だった層へ参加意欲の向上や地域外からの関心も呼び込む)	200(≒2495世帯県地区×67%スマートフォン世帯当たり全国普及率×10%)	1,298(いいね実績)

7. 成果

様々な角度からの講座・イベント・連携事業の開催や、情報発信を行うことにより、地域の人材の発掘や課題解決のヒントを得ることができた。

また、地域内外の人脈を地域へ結び付けることができ、今後も facebook を通じて幅広い交流が期待できる。

8. 今後の展開

県地区の facebook ページへの関心を増やして、大学生や高校生などの若者の声にも耳を傾け、さらに高齢化する地域活動の役員を取り込み、そこでの意見交換や交流を通して、地域課題の解決のための方策を考えていく。

オープンガーデンの普及（「あがたグリーンガーデン」の組織の立上げ）



慶応大学との域学連携事業（地域との意見交換会）



地域の情報発信（タブレット・スマホ講座）



グリーンパーク岡山の活性化
（「あそぼうさい」でのバンブーハウス作り）



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	郷土愛を育み、世代を超えてふれあい、絆を深めるまちづくり事業	地区名	八郷
------------	--------------------------------	------------	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
先人から受け継いだ豊かな八郷の自然・歴史・伝統文化等を守り育てるとともに、これらの地域資源に誇りを持ち、子どもから高齢者まで、世代を超えてふれあい、絆を大切にするあたたかく住みやすい地域を目指す。	・高齢化が進む一方、親と同居しない世帯が多くなり、世代間や地域間のつながりが以前と比較して薄れている。 ・高齢者のみの世帯が多く、空き家や空き田畑が増加傾向となっている。 ・歴史探検隊の発足や花づくりの推進等、自然・歴史等に関心が高まってきている。

3. 課 題

少子高齢化が進む中、世代間や地域間での人のつながりが希薄化しており、自然・歴史・文化等地域の資源が埋もれ、地域の活力が失われつつある。よって、地域に誇りを持って、地域の人々がふれあい、絆を強くする取り組みが必要である。

4. 実施内容

○ 地域財産である自然・歴史や文化をテーマに、八郷の魅力を再確認し、子どもから高齢者まで世代を超えた地域のふれあいの場と機会をつくり、絆を大切にするまちづくりを進めるための事業を、前年度に引続き実施した。

①- 1 八郷汁・八郷米の農作業体験学習及び収穫祭

地区内の小学校、私立幼・保育園にポスターの掲示や参加申込書を配布し、事業PRを行なった。また、農作業体験に興味を持つよう、米づくりでは、田うえや稲かりを全て手作業で、野菜づくりでは、八郷汁の具材以外の野菜の栽培種類（黒大豆・さつま芋・白菜）を増やすことで、前年度より参加家族数を増やすことに努めた。さらに、地区老人連合会に協力依頼し、5月から11月の6回の農作業に10名程度、八郷汁の調理に女性部5名にスタッフとして参加いただき、世代を超えた地域のふれあいの場と機会をつくる取り組みを行なった。

☆ 延べ人数 533人 内訳 134家族 403人・スタッフ 130人 うち老人会 54人

5/ 7 田植え・里芋植え・さつま芋植え、6/18 育成観察会・黒大豆種まき、7/16 人参・ゴボウ種まき、8/27 大根・ネギ・白菜種まき、9/10 稲刈り、11/ 5 収穫祭・八郷汁調理

①- 2 八郷汁の地域ブランド化

大鍋（150人分）のレシピを基に家庭用レシピを作成。地区内開催のイベント（ロゲイニング大会・ふれあいまつり・八郷フェスタ）の参加者等に、八郷汁の配膳に合わせ配布・配架を行った。また、地区内の人には、八郷フェスタ開催前にレシピの各戸配布を開催後に地区広報に掲載をし、地区外の人には、開催前後に伊坂ダム関連施設にレシピ配架を依頼する等の情報発信を行った。

☆ 5/15 ロゲイニング 500枚、10/16 ふれあいまつり 1,500枚、11/ 6 八郷フェスタ 1,200枚

② 散策・サイクリングマップの標示看板設置

平成26年度に作成した、八郷地区散策・サイクリングマップのコース上の設置ケ所の選定と土地所有者の調査。また、看板デザインを検討し、標示看板の設置を行った。

☆ 標示看板設置ケ所数 67ケ所のうち 21ケ所（表面1枚 12ケ所・表裏面2枚 9ケ所）

③ 歴史書等を活用した出前講座

子どもから高齢者を対象に、八郷の歴史書と散策・サイクリングマップを活用し、地区の文化財・お寺や神社を巡る学習会を開催した（7/29 参加者 39人）。また、各町（丁）や学校関係に配布した本を活用し、八郷・八郷西小学校では授業の一環として出前講座（高学年は八郷の歴史・低学年はむかしのあそび）を開催した（7/11・12 参加者 111人）。

☆ 出前講座延べ参加者数 150人

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支 出 先
需用費	小型管理機用機材ほか	63,348	馬場農機ほか
委託料	案内看板作成・設置委託	65,880	看板 いとう
	世代を超えた地域ふれあい事業	412,500	八郷地区連合自治会
	土地所有者調査委託	309,808	公益社団法人三重県公共嘱託登記土地家屋調査士協会
	標示看板作成・設置委託	493,776	看板 いとう
備品購入費	小型管理機	153,306	馬場農機
合 計		1,498,618	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
農作業体験学習・収穫祭等延べ参加者数	600 人	533 人
看板・標示設置数	全体 40%	全体 31%

7. 成果

①-1：田うえや稲かりを全て手作業にしたことや栽培野菜の種類を増やすことで、参加者数の増加を図ったが、募集数 40 家族に対して 33 家族(大人 42 名・子ども 52 名・計 94 名)であった。しかし、地区老人連合会にスタッフとして参加いただいたことにより、アンケート調査で 8 割強の方より「良かった」との回答を得、参加者や高齢者からは、『八郷汁』をふるまうことを目的に、農作業の大変さや収穫時の楽しさを子ども・親・高齢者の三世代が一体となり取り組んだことで、貴重な体験ができたとの意見があった。また、参加家族の 3 分の 1 程が家族全員で参加され、地域の人々がふれあいや絆を強くする取り組みのほか、家族の絆も強くすることができた。

①-2：八郷汁の配膳に合わせ家庭用レシピを配布・配架したことで、持ち帰った人が家で料理したとの声も聞かれ、地区全体に浸透してきている。

②：今年度は、東名阪自動車道の西側コースしか設置できなかったが、案内看板と標示看板を設置したことで、マップの利用者には歴史散策やサイクリングの道標として活用されることが期待できる。

③：2 冊の歴史本を地域や学校関係に配布し、特に、学校関係には地域コミュニティの授業の一環として活用してもらうことで、地区の歴史や遊びに興味を持つ機会ができ、次世代に継承していく取り組み等につなげることができた。

8. 今後の展開

①-1：農作業体験は、郷土料理『八郷汁』の具材である野菜を育て、11 月開催の八郷フェスタでのおもてなし料理として好評を得ており、参加者や地域から継続を求める声が高い。今後は、新たな事業として子どもから高齢者まで世代を超えた地域のふれあいの場と機会づくりを企画し、その一環として農作業体験に取り組むことで継続を図りたい。

①-2：八郷汁の地域ブランド化に向け、今後もイベント開催時等に合わせ、地域が主体的に地区ホームページへ掲載等し、情報発信を行いたい。

②東名阪自動車道の東側コースについては、標示看板設置が未設置のため、来年度以降も計画的に取り組んで行きたい。

③2 冊の歴史本のうち『八郷の歴史探検スポット 50 景』については、散策・サイクリングマップと併せて活用し、新たな地区イベントの企画の参考に、また、『むかしのあそびあれこれ・子どものあそび』については、幼・保育園の遊びの場や小学校の授業の一環として活用してもらうことで、地区の歴史や遊びに興味を持つ機会を増やして行きたい。

①-1 八郷汁・八郷米の農作業体験学習及び収穫祭

田植え



里芋植え



観察会（お米）



にんじん種まき



稲刈り



収穫祭集合写真



①-2 八郷汁の地域ブランド化

現在から未来へ伝統として受け継がれていく“味”

郷土料理 八郷汁

二十数年前より「芋煮会」でおなじみの山形県出身の平津新町在住のお母さん方に作り方を教えていただき、大勢集まる地区のイベントでふるまわれている。野菜中心のヘルシーな味噌汁です。大きななべ（150人用）で作る“八郷汁”は最高です。作りおきして、次の日も美味しくいただけます！ぜひ一度ご家庭でもお試しください！



材料（お椀約16杯分）

里いも	500g
ごぼう	100g
だいこん	1/2本
にんじん	1本
長ねぎ	1本
きのこ	50g
牛ばら肉・豚ばら肉	各100g
木綿豆腐	1丁
こんにゃく	1枚
焼きちくわ	1本
お水	2リットル
赤だし味噌	160g
和風だしの素	30g
醤油・料理酒・みりん	各30cc
一味唐辛子	少々

《下準備》

- ① 里いもは皮をむき、食べやすい大きさに切る。
- ② ごぼうはさがし、水であく抜きをする。
- ③ だいこんは、いちょう切り（3～4ミリ程）にする。
- ④ にんじんは、半月切り（3～4ミリ程）にする。
- ⑤ きのこは、好みのきのこを食べやすい大きさに切る。
- ⑥ こんにゃくは下茹でし、短冊切り（5ミリ幅程）にする。
- ⑦ 焼きちくわは、斜め切り（5～6ミリ程）にする。
- ⑧ 牛ばら肉・豚ばら肉は、2センチ程に切る。
- ⑨ 木綿豆腐は、黄の目切り（1.5センチ程）にする。
- ⑩ 長ねぎは、小口切り（1センチ程）にする。

《調理方法》

1. 大きめのなべに、お水2リットルを入れる。
2. 下準備をした、①から⑦をなべに入れ、里いもがやわらかくなるまで中火で煮る。
3. 煮たら、牛ばら肉・豚ばら肉を入れ、あくをとる。
4. 和風だしの素・醤油・料理酒・みりんを入れる。
5. 木綿豆腐を入れ、火が通ったらいったん火を止め、赤だし味噌を溶き、再び火をつけ温まったら火を止めて長ねぎを入れる。

② 散策・サイクリングマップの標示看板設置



③ 歴史書等を活用した出前講座



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 下野ふるさと見直し事業（下野音頭編）

地区名 下野

1. 望まれる地域の姿

自然豊かで、史跡や遺跡など文化資源を持つ下野地区をあらためて誇りに思える地域にする。

2. 地域の現状

- ・ 活用できる文化資源が眠っている。
- ・ 地域の史跡・遺跡を知らない人が増えている。
- ・ かつての取り組みは時間が経過し、認知度が低下している。

3. 課題

下野地区にあるふるさとを感じる地域資源を再確認し、改めて、誇れる故郷を再認識することにより、地域のコミュニティの維持・向上を目指し、地域の絆づくりの一助にしていく必要がある。

4. 実施内容

(1) 下野ふるさと見直し事業

- ① 委託内容協議（踊り復元、三味線用・歌用楽譜作成、踊り講習・指導・披露、会議）
- ② PR グッズ等（法被 100 枚、うちわ 1,000 本 等）製作
（法被：地区市民センターの備置き住民等へ貸与、うちわ：文化祭において配布）
- ③ 下野音頭アレンジ 下野音頭保存会へ
- ④ 講習会の開催（7/22, 7/29, 8/9・2 会場, 8/10）（各回 15 人～40 人参加）
（下野音頭保存会へ委託、保存会会員 2～4 名が講師）
- ⑤ 地区行事（敬老行事 9/19、文化祭 11/6）（150 人、100 人）（披露参加者 26 人、27 人）
夏祭り（2 踊り大会、延べ 4 日 8/12.13.14.15）で披露・普及活動（下野音頭保存会会員による指導・披露）
夏祭り参加者 札場 500 人、あさけが丘 1,500 人
- ⑥ 郷土の誇る芸能大会(1/14)へ参加 新聞にも取り上げられ、意識高揚につながった。大会では「ふるさと愛賞」を受賞。地区からの参観者からは、セコイア太鼓とともに、芸能としても楽しめると声もいただいた。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	下野音頭PR用品(法被)	405,000	(株)上田
	下野音頭PR用品(うちわ)	96,660	(株)稲藤
	下野音頭PR用品(手拭)	70,200	(株)上田
	下野音頭PR用品(帯)	91,800	(株)上田
委託料	下野音頭普及啓発業務	180,000	下野音頭保存会
合 計		843,660	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
地区内での交流の充実と地区内外への情報発信	芸能大会への参加	ふるさと愛賞を受賞

7. 成果	8. 今後の展開
下野音頭については、お揃い法被等を作成して、今後とも、地域の PR に活用していくことで地域の一体感を醸成する。今回は最終目標である「郷土が誇る芸能大会」に参加し、参加者が着用し一体感を盛り上げることができた。 地域の中で、下野音頭を復活させるとともにアレンジすることにより、親近感を醸成し、ひいては地域の芸能振興を図られた。	下野音頭を踊りだけでなく、下野の歌としての振興も図れるのではないかと声もあり、踊り、歌とともに、来年度も普及・振興を図り、定着化を目指していきたい。 さらに、複数年をかけて、地域資源の掘り起しを行い、地域再確認・再発見の事業を企画するとともに情報発信を模索する。

下野音頭（踊り講習）



下野音頭（踊り披露）



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	素晴らしい「環境」を継承するまちづくり事業	地区名	大矢知
-----	-----------------------	-----	-----

1. 望まれる地域の姿

安心して暮らせる生活「環境」を育み、豊かな自然「環境」を守り、歴史・文化的「環境」を次世代に引き継ぐために活動する地域。

2. 地域の現状

近年の人口増加により、世代間のコミュニティが希薄となってきている。一方、開発が進む中、地区内には里山などの豊かな自然や旧東海道周辺を中心として多くの歴史的遺産が残っている。

3. 課題

近年、住宅地の開発により人口増加が著しく、特に若年層の流入が顕著である。このため、人々との繋がりが希薄となり、地域におけるコミュニティが弱体化してきている。また、地区内にある豊かな自然や歴史的遺産の認知度も低い。こういったことから、地域コミュニティの再形成と自然・歴史遺産に親しむ機会を提供することが望まれている。

4. 実施内容

大矢知地区まちづくり構想(平成 23 年 3 月策定)に掲げる 4 つのプロジェクトに基づき、以下のとおり事業を実施した。

- ① 身近な交流の場づくりプロジェクト (活動日 4 月 21 日～3 月 16 日 27 日 延べ 362 人)
地域コミュニティを促進させるため、子どもから高齢者までが気軽に参加できる事業を実施した。
地区市民センターをはじめ、地域の集会所などを利用し、ゲームなどで楽しむ「街なかサロン」や「EM液づくり(79 人)」、「段ボールコンポストづくり(61 人)」を実施。また、親子で参加していただける「ぬの草履づくり(33 人)」や「ピザづくり(24 人)」を実施した。
- ② 朝明川自然学習公園化プロジェクト (活動日 5 月 21 日～3 月 19 日 12 日 延べ 216 人)
朝明川堤防を散策路として整備し、住民に憩いの場や自然観察の場として提供するため、繁茂した木竹の伐採を行った。
- ③ 里山保全プロジェクト (活動日 5 月 15 日～2 月 24 日 11 日 延べ 207 人)
里山周辺の環境を守り、住民に憩いの場を提供するため植樹や散策路の整備を行った。
大矢知町(観音山)と垂坂町(観音寺周辺)の散策路を整備するとともに、苗木の植樹や木製ベンチ(3 基)の設置を行った。また、多くの人が訪れる大矢知観音に案内板を設置した。
- ④ 歴史・文化の継承プロジェクト (活動日 6 月 28 日～2 月 25 日 9 日 延べ 76 人)
地区の歴史・文化を学び、それを継承していくために、地区内の歴史的遺産に案内板を設置した。
地区内の寺社や史跡 5 カ所(立阪神社、眞西寺、法從寺、丹羽修治記念碑、輝子頌徳記念碑)に案内板を設置し、住民が地域を知り、学べるような環境を整えた。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
講師報償費	講座講師謝礼(ぬの草履等)	28,000	地元講師
需用費	講座材料(EM液等講座材料)	59,162	(有)アスム、各講座講師
	朝明川整備用資機材	18,800	(株)コメリ
	里山整備用資機材	399,782	(株)コメリ、(有)アラキヤ
	里山整備用資機材(苗木)	248,400	(有)みどり園
	里山整備用資機材(ベンチ)	87,480	(有)材常商店
委託料	案内看板製作・設置	570,240	エクステリア モリタ
備品購入費	整備作業機材(刈払機)	21,384	馬場農機
合 計		1,433,248	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
各プロジェクトへの参加人数及び 講座への参加者数	800 人	861 人 ①身近な交流 362 人 うちEM液講座等参加者 197 人 ②朝明川公園化 216 人 ③里山保全 207 人 ④歴史・文化継承 76 人
プロジェクトボランティア数	80 人	80 人 ①身近な交流の場 11 人 ②朝明川公園化 26 人 ③里山保全 25 人 ④歴史・文化継承 18 人

7. 成果

参加者からは、自らが住む地域を知ることができ、愛着が生まれたなどの意見があり、コミュニティ活動への参加意識が芽生えてきている。

また、自然環境や歴史・文化の保全を通じ、次世代への継承を前提とした地域づくりが推進されてきている。

8. 今後の展開

固定化を防ぎ、参加者を増やしていくために、各種団体との連携を図ることや、人材の育成が必要である。

また、多くの人が参加していただけるように、さまざまな機会を通じ、活動を理解していただくとともに、行動していただけるようにPRをしていく。

① 身近な交流の場プロジェクト(ぬの草履づくり)



② 朝明川自然学習公園化プロジェクト



③ 里山保全プロジェクト



④ 歴史・文化の継承プロジェクト(丹羽修治記念碑)



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 河原田地区いいところ発見事業

地区名 河原田

1. 望まれる地域の姿

みかん山、桜並木など先人から受け継いだ良好な自然環境や伊勢街道が通るまちの歴史や伝統文化など河原田地区の魅力を地域住民が再発見することにより、地域愛があふれた町になる。

2. 地域の現状

河原田地区は6町で構成されている。人口減少や高齢化が進んだ町がある一方で、近年のミニ開発により、若い世代の新世帯、新住民が増加している町もある。地区全体としては人口微増の状況となっている。

3. 課題

まちづくり構想策定委員会が昨年度行ったアンケート調査や新たに居住した人たちからも、子どもたちの遊び場やお年寄りが集えるような公園や集会所など、何がどこなるのかわからないといった声が多く寄せられた。地区住民がまち歩きを楽しめるように地域資源の情報発信を行っていくことと共に地域間や世代間の交流の場づくりが強く求められている。

4. 実施内容

●河原田の“いまマップ”(今のマップ)事業

地区内外の住民がまち歩きを楽しめる公園や史跡だけではなく、親子の遊び場やお年寄りのコミュニティの場など河原田の地区の良いところを掲載したマップ(2,500部)を作成し、地区内の各戸へ配布した。

●みかん祭り事業

河原田みかんを使ったイベントで地域資源のPRと地域住民の交流を図った。

① みかん祭り2016開催(平成28年11月20日実施 参加者 255人)

- ・みかん狩り体験、みかん皮むきアート選手権、河原田マルシェ(みかngo飯試食、みかん販売)
- ・農芸高校と協力してみかんスイーツのレシピを考案し、試食会でレシピを配布した。

② みかんツリー点灯式(平成28年12月9日実施 参加者295人(点灯式200人、オーナメント作り95人))

- ・河原田小学校と協力し、地域住民と小学3年生(平成28年11月15日実施)と2年生(平成28年11月22日実施)が河原田みかんを使ったクリスマスオーナメント作りで交流した。また、みかんツリーの点灯式では、ブラジルの国や家庭料理を紹介することで、多文化交流を行った。

③ みかんあるある辞典

- ・河原田みかんの歴史や収穫までの作業の様子、農芸高校生考案のスイーツレシピ等を掲載した「あるある辞典」(2,500部)を作成し、地区内の各戸へ配布して、河原田みかんの情報を発信した。

●歴史を知り、歴史を伝える事業

- ・「河原田を知る歴史講座 6回連続講座」(平成28年10月～平成29年2月 参加者232人)

河原田にゆかりのある方を毎回講師に迎え、歴史を学ぶことで地域の新たな魅力を再発見し、郷土への愛着を深めることができた

- ・河原田検定(平成29年1月29日実施 受験者43名)

河原田歴史クイズを地区お知らせ(各戸配布)に毎号掲載するとともに、「河原田検定」を実施して河原田の魅力を周知した。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	河原田今ツッ印刷	576,720	(株)ナミカワ
委託料	みかん祭り、みかんツリー点灯式等イベント開催、あるある辞典作成	350,000	ささえ愛のまち 河原田の会
	歴史講座・河原田検定開催	200,000	ささえ愛のまち 河原田の会
合 計		1,126,720	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
みかん祭り等イベント参加者数	300 人	550 人
歴史語り部登録者	3 人	7 人

7. 成果

- ・今マップを作成するために会議やイベントに参加し、情報収集を行うことで、地域に人材がいることを知ることができた。
- ・みかん祭り事業では、河原田みかんが地元の貴重な資源であるとの思いが深まり、地場産業として保存継承することや、みかん山周辺の自然を保全することについて考えるきっかけとなった。また、開発地区に引っ越してきた若い世代の参加も多くあり、古くから住む住民との交流が図られた。
- ・歴史講座では、河原田出身で活躍された熊澤市兵衛・熊澤一衛両氏について、熊澤家の現当主から貴重なお話をさせていただきことで、若い世代が地元の歴史に興味を持ち、引き続き歴史を研究していこうとの機運が高まった。

8. 今後の展開

- ・出来上がった今マップを活用した、まち歩きを実施し、地域の新たな魅力を発見できるような取り組みを実施していく。
- ・河原田地区まちづくり構想では、河原田みかんやみかん山周辺の整備を重点プロジェクトとして位置付けている。高まったみかん山への関心を逸らすことなく、地域住民が力を合わせ、みかん山周辺の環境整備を進められるように支援していきたい。
- ・「河原田地区の郷土史」は前編しかなく、後編の作成を望む声が多くある。熊澤氏の協力を得て、資料の収集と研究を継続していく予定である。

河原田の“いまマップ”(今のマップ)



みかんまつり事業
(みかんアート)



(みかんツリー)



河原田を知る歴史講座



河原田検定



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域・自然を活かしたまちづくり事業

地区名 水沢

1. 望まれる地域の姿

四日市あるいは周辺の地域の人々が、ちょっと日常を忘れ、自然に包まれゆったりと時間を過ごすことができ、また、水沢ファンを生み、安心して定住できる地域。

2. 地域の現状

豊かな自然とトップレベルの茶産地、すぐれた伝統芸能と豊かなコミュニティを持ちながらも人口減少、コミュニティの希薄化が進んでいる。

3. 課題

水沢地区まちづくり構想の中で「水沢」の魅力アップを目指す施策が策定されたものの重点施策以外についても、

1. 地域の文化、伝統、コミュニティの維持
 2. 来訪者をファン（理解者）とし定住者へ結びつける
- 等のために、地域情報（魅力）発信への取り組みを内外へ向けて継続する必要がある。

4. 実施内容

- ① 「水沢」の魅力アップ学習会の開催
情報発信、地域活動の学習（学習、会議資機材の準備、センター図書室で 10 名・月 2 回）
 - ② 地区紹介映像による情報発信（春編）
春・水沢の新緑～日本一の茶づくり・映像媒体の作成、DVD 9 5 部配布、動画サイトへ掲載、利活用の働きかけ（DVD 配布先 茶業関係者、地元自治会、学校ならびに市広報関係者ほか）
（お茶とお茶に関わる人々の取組・思いを紹介）
 - ③ 地区紹介映像による情報発信（夏編）
夏・水沢の観光資源～市民活動・映像媒体の作成、DVD 9 5 部配布、動画サイトへ掲載、活用への働きかけ（DVD 配布先 地域活動団体、地元自治会、学校ならびに市広報関係者ほか）
（豊かな自然を体感できるイベント、祭り・それを伝承する地域の人々の取組を紹介）
- ②及び③の地区紹介映像については、JA、介護施設等において放映されるとともに、CTY等での一部利用も行われている。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	春の活動紹介映像制作業務	486,000	地元個人事業者
	夏の活動紹介映像制作業務	486,000	地元個人事業者
需用費	ルーター、カメラ等	26,600	家電販売店(コジマ)
	タブレット 3、プリンター等	60,480	家電販売店(ヤマダ)
	棚板、配線材料等	2,507	資材販売店(コメリ)
合 計		1,061,587	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
ユーチューブ閲覧数	1,000 回	1,300 回

7. 成果

・地域の内部、並びに、遠方への「地域情報の見える化」を促進した。

・市の情報発信への題材提供、相乗効果を高めた。
(今回の映像紹介により、既存の情報、市の広報媒体への閲覧数も増加している。)

J A, 介護施設での放映。CTY 等・他メディアから一部転写利用の発生など、自然な利用拡大につながっている。

地域の中からさえ各情報について初めて知ったとの声もあり、地域情報の見えるかは必要と感じてもらった。

地域での活動を支えている人々の思い、行動を紹介、たたえることができた。

地域映像を鑑賞することにより、疑似的な交流・ふれあい感覚が生じ、地域活動者との親近感が醸造され、希薄化したコミュニティの意識回復にも寄与している。

地域活動において、官製ではない、住民主体・発案の活動を行うことが重要との考えが提示され、地域住民独自で組織化、活動の取組が試行されだした。

8. 今後の展開

水沢地区まちづくり構想の中で「水沢」の魅力アップを目指す施策が策定されたが、これに向けての実行が遅れている。また、一方で、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化など地域生活を支えている安心基盤の補強、回復の要求も高まっている（包括ケア、コミュニティスクールなど）。

多種多様なニーズが提案されているが、どれも、地域による自助、共助の主体性が不可欠とされており、官製ではなく地域発案・主体が求められている。

地域活動の自主性を支え、流れを阻害しないよう既存の予算、補助の届かない箇所を支援する形に切り替える。地域試行の事業について、委託する形の執行形態に取り組む。

・元気なまちづくり会の応援：みっ茶桜会、トラック市、等の初期開催を委託として応援。

・発案者の会議応援、人材発掘：OA 機材の補填等による、情報室（図書室）のサロン化。

・情報発信、情報管理、地域魅力の確認：電子版地区観光マップ制作委託、史跡名勝情報の追加など。

地区紹介映像による情報発信（HP）



地区情報発信 (YouTube での動画配信)



地区紹介映像（水沢の新緑～日本一の茶づくり）



地区紹介映像（水沢の観光資源～市民活動）



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 自然環境を生かしたまちづくり事業

地区名 保々

1. 望まれる地域の姿

豊かな自然環境の保全に地区住民の皆が取り組み、次世代に引き継いでいくことのできる地域

2. 地域の現状

減少著しく市内では目にする機会が少ない蛍や自生するコウホネを見ることができるなど豊かな自然環境に恵まれた地域

3. 課題

地区内の自然保護活動団体である「保々の自然に親しむ会」が地区内の県有地を借用して里山・ビオトープを整備し、小学校や保育園とも連携した自然環境学習や、自然観察会・蛍観察会など自然環境の保全の普及啓発活動を行っているが、木の板にマジックで記入した案内板や注意看板が雨風で傷み、文字が消え、読めなくなっている。また、会員の高齢化が進み、担い手不足となっている。

そして、地区内外への情報発信が不足しているため、自然環境資源の知名度が高いとはいえない状況であり、自然環境の保全に適切でない行動がみられることがある。

4. 実施内容

(1) 自然観察案内板設置事業

地区内の主要自然観察ポイント（2カ所）に案内板を設置。（コウホネ、スダジイ）

(2) 里山整備支援事業

住民が里山を憩いの場、自然環境学習の場として訪れやすくなるよう、案内看板（1枚）、注意看板（1枚）、ベンチ（4台）を北勢中央公園内の里山保全活動地に設置。

(3) 里山保全入門講座事業

里山保全活動に興味を持っていただくとともに、自然保護への意識高揚、人材育成を図るため、里山保全入門講座を開催。

（第1回 11月12日実施 北勢中央公園内の里山保全活動地（講義、現地調査、樹名板設置））
39人参加

（第2回 2月12日実施 保々ふれあい会館（里山保全活動紹介、自然写真展示、収穫作物等試食））300人参加

(4) 地区自然紹介パンフレット作成事業

地区内から、保々の自然に関する写真を募集（応募250点）、保々の自然を紹介するパンフレット（5,500部）を作成し、地区内（全戸）に配布（保々駅、北勢中央公園口駅、保々ふれあい会館、人権プラザ小牧、北勢中央公園管理事務所にも配架）。また、保々の自然に親しむ会の実施する自然観察会などで資料として活用する。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	ベンチ	71,200	(株)カインズ
	樹名板	102,762	内田工業(株)
委託料	自然紹介看板等設置	172,800	SS デザイン設計・服部
	里山保全入門講座	169,560	保々の自然に親しむ会
	地区自然紹介パンフレット作成	216,000	(株)イヤマ印刷
合 計		732,322	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
講座参加者数	40 人	39 人
写真応募点数	200 点	250 点

7. 成果

里山保全入門講座の参加者からは、「樹木の名前を少しは覚えることができた」、「樹名板を掛けた木をこれからも見守りたい」といった声が聞かれるなど、好評であった。

保々地区の自然紹介パンフレットの配布、自然紹介看板の設置により、豊かな自然の情報発信を行うことができた。

また、保々の自然に親しむ会へ新規に1名が入会し、里山保全活動を行っている。

8. 今後の展開

整備を行った里山と作成したパンフレットを活用し、自然環境の保護と次世代へ引き継ぐことの重要性の浸透を図るとともに、里山保全活動への参加者を増やし、世代交代につなげるとともに、地域の協力体制を構築していく

里山保全入門講座[第1回] (平成28年11月12日)

(北勢中央公園駐車場での講義)

(樹名板をかける参加者)



里山保全入門講座[第2回] (平成29年2月12日)

(活動写真等展示)

(収穫作物等試食)



自然紹介看板写真



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	海蔵川さくら魅力アップ事業	地区名	海蔵
-----	---------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
市の観光資源になっている海蔵川堤防の桜並木を中心とした河川敷を、地区住民を含む市民誰もが自然を感じることができる憩いの空間として利用できる。	桜まつりには大勢の人が集まるが、それ以外ではせっかくの緑地帯が有効に活用されていない。 また、桜の木を含む河川敷の環境保全活動の担い手が固定化している。

3. 課題
○平成 26 年度に樹木医の診断を受けたところ、老木化が進行しており延命措置を講じる必要がある。 ○河川敷の利用促進のため美しい環境を守るために保全に携わっている人が固定化しており、関心の薄い住民も多く、担い手の確保や技術の伝承が難しい状況にある。

4. 実施内容
① 並木の保存・活用・魅力づくり 古木化が進んでいる樹木の保存を行うために、樹木医の剪定指導のもと、地域住民による剪定などを実施した。(H28.11.13 : 50 人参加) (H29.3.5 : 40 人参加) なお、地域住民が対応できない高所などの危険作業及び倒木危険樹木の伐採は H29.1.25~27 にかけて専門業者により実施した。それにより発生した枝木の処分のため、H29.1.28 に自治会長等により軽トラック延べ 20 台(約 3 トン)をクリーンセンターまで運搬した。(H29.1.28 : 30 人参加) ② 樹勢回復作業 樹木医による樹木診断に基づきその指示のもと、自治会長等により施肥(50 本)などを実施した。(H29.1.28 : 30 人参加) ③ さくらまつり来場者への周知(H29.3.26~29.4.9) 地域管理による成果のパンフレットでの周知(500 部配布)及びアンケートの実施 ④ 菖蒲園活性化 海蔵川堤防に併設する「菖蒲園」についても、地域住民による管理が行われている。菖蒲についての深い知識を地域住民が習得するとともに、より活性化ための施策を支援した。(H29.2.19:土入れ 300kg)

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	剪定・施肥資材 肥料、薬剤、消耗品(マスク、手袋 など)、土入れ用土 ほか	44,755	DCM カーマ株式会社
	啓発パンフレット	43,200	フコク印刷工業有限公司
委託料	剪定作業警備	84,240	株式会社 MS 管財
	危険箇所剪定	496,800	東海物産株式会社三重支店
	樹勢回復診断	399,600	
	倒木危険樹木伐採	79,920	
合 計		1,148,515	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
剪定・施肥作業参加者	延べ 100 人	延べ 120 人
さくらまつり来場者満足度アンケート	90%以上	96.1%

7. 成果

- ・住民の剪定作業への関与により桜の木が保全されるとともに、樹勢回復に寄与することが出来、美しい堤防を維持できるようになる。
- ・堤防を含む河川敷の保全に関する情報を地区内外に発信し保全活動に関心を持つ人を増やせる。
- ・海蔵川河川敷の環境が保たれ、憩いの場として住民の利用が増える。
- ・施肥などの成果は、即座の確認は困難であるが、本事業が桜並木の活性化に寄与できたことを樹木医の協力も得て検証に取り組んでいきたい。

8. 今後の展開

- ・桜並木の保全と堤防の美化維持ために地域の皆さんが献身的に取り組んでいることを「花見客」にもさらに周知するとともに、保全活動の啓発と将来にわたっても市民への憩いの場の提供できるように取り組んでいく。
- ・毎年の桜の木の剪定や河川敷の清掃により、良い環境が保たれ、健康づくりや運動の場としての利用に向けての取組みも進み、海蔵川河川敷が憩いの場として四日市市の中心的位置を占める緑地となる。

海蔵川魅力アップ事業

1. 枝木剪定 (28.11.13)



2. 枝木剪定 (29.3.5)



3. 剪定作業(29.1.25~27)



4. 施肥・枝木処分作業 (29.1.28)



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域ふれあい推進事業（いも栽培）

地区名 海蔵

1. 望まれる地域の姿

少子高齢化が進展するなか、すべての世代が「ふれあい」を通して、仲間意識を醸成し、他人を思いやることのできる地域。

2. 地域の現状

海蔵地区は都市化が進展して、子どもたちが土に触れる機会が少なくなっている。また、核家族などにより地域意識の希薄化がすすみ、地域の人への関心が薄れている。

3. 課 題

地域意識の希薄化により地域の活性化が問題となるなか、世代間交流を推進することで「地域力」の復元が急務となっている。

4. 実施内容

- ① 地区内農地を借り上げ、海蔵小 2 年生 130 人によりさつまいもを栽培
 - ・ 苗植付(H28.6.10) (約 20 人の地域関係者の支援)、草取り(夏休み前)、収穫 (H28.10.18) (約 30 人の地域関係者の支援)、
 - ・ 児童の感想文の作成、児童アンケートの実施
 - ・ 児童の試食 (2 年生給食でのサツマイモチップス) (原材料 40k g)
- ② 「海蔵地区運動会(H28.10.30)」での世代交流、農産物提供
 - ・ 関係団体との連携により、「やきいも」(100k g) などの販売 (売上金 20,350 円は熊本地震義援金へ)
 - ・ 事業の取り組み状況の紹介として、児童感想文、植付作業、収穫作業写真の掲示
 - ・ 当日の来場者への事業取り組みアンケート(43 人)の実施

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	営農指導謝金	30,000	地元農業関係者
使用料	仮設トイレ設置	60,920	株式会社四日市生活環境公社
	焼き芋機器借上げ料	25,920	ダスキンレントオール
	農地借上げ料	20,000	地元農業関係者
需用費	イモ苗、肥料、除草剤	40,834	三重北農業協同組合
	植付資材(スコップ、ジョウロほか)	25,008	有限会社アラキヤ
	事業表示看板	8,100	有限会社タカクラ広美
	掘り資材(コンテナ、スコップほか)	53,399	DCM カーマ株式会社
	ガス(焼き芋用燃料)	4,341	三重品川産業株式会社
	写真、掲示物(運動会)	28,080	フコク印刷工業有限会社
合 計		296,602	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
関係児童の満足度	90%	来年もやりたい 96% (131 人)
地区運動会でのアンケート満足度	80%	事業の意義あり 100% 事業の継続希望 98% (43 人)

7. 成果

- 「地区運動会」での地域農作物の提供
 - ・都市化が進む地区内での農業とのふれあいを実感できる機会を提供出来た。
 - ・地域内での各種団体の連携協力が、事業を共同で取り組むことで、さらに強くなった。
- 情操教育の推進
 - ・普段は「土」にふれあうことが少ない児童に農業体験を実感できる機会を提供出来た。
 - ・自分たちが栽培に関わった作物を食することで、自己の関わりの価値を学ぶことが出来た。

8. 今後の展開

- ・さつまいも栽培に関わった児童が自ら調理に携わる試みがあった方が、より感動が湧き上がったと考えられる。次年度以降、同じ事業が実施されるのであれば、学校とそのような取り組みも調整したい。

地域ふれあい推進事業

1. いも植付 (28.6.10)



2. いも掘り (28.10.18)



3. やきいも (28.10.30)



4. イモチップス (給食)



平成 28 年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 元気のあるまち、元気の出るまちづくり

地区名 橋北

1. 望まれる地域の姿

高齢者の居場所やいきがいくりの場を提供することによって、地域住民の連携を育み、絆の強い地域となる。

高齢となって介護が必要な状態となっても、できるだけ住み慣れた地域で暮らし続けることができる。

橋北地区の歴史を知ることにより、郷土に愛着を持ち、絆の強い地域となる。

2. 地域の現状

四日市市内で最も高齢化の進んだ地域であり、高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が年々増加している。

3. 課題

- 1 定年を迎えた高齢者が多く、地域に居場所がないことや現役時代に地域に関わっていないことから地区内に知り合いがいないため、居場所や生きがいくりの場を提供していく必要がある。
- 2 地域において「医療」、「介護」、「介護予防」、「生活支援」、「住まい」の各サービスを一体的・包括的に提供する仕組みが求められる。
- 3 橋北地区には東海道を始め、歴史的遺産が数多く残っているが、地域の人々にあまり知られていない状況がある。

4. 実施内容

1 おとなの小学校事業の展開

平成28年7月 入学式(42名受講)・交通安全落語(公開講座 50 名)

8 月～講座「万一の地震について勉強しよう！」パート1・2

「『人権』ってな～に？」

「認知症予防について学ぼう」

「支え合うまちづくり。ボランティアを学ぼう！」

「女性も男性も、ちょっとだけお洒落に。ひと工夫でこんなに！カラーコーディネート」

「騙されないぞ！悪質商法について勉強しよう。」

計7回

教室「アクティブに暮らそう」～健康体操～

「タイムトリップ 古文書をひもとう」

「手話を学んで福祉に生かそう。」パート1・2

「下手も上手もない。その時々的心を伝えよう。」～絵手紙～

「和紙のあと絵」

計6回

福祉活動「幼稚園・保育園で子どもたちとふれあおう！」

課外活動「橋北小学校と連携して課外活動を実施」(延べ 115 名参加)

児童とまち歩きをして、地域の課題とその解決策を考えて実践する

学生企画「おとなの小学校 文化祭・おもてなし」橋北交流会館(102 名参加)

遠足(四日市市クリーンセンター)、社会見学(浜岡原子力発電所)、クリスマス会等

平成29年3月19日 卒業式・卒業コンサート(公開講座、四日市観光大使 KUNI-KEN の演奏)

ばんこの里会館 参加者105名

2 高齢者を支えるまちづくり

介護予防教室の開催

お茶に親しむための講座 3回開催(7月20日、10月18日、3月25日 各回10人程度参加)

料理を楽しむための講座 3回開催(1月11日、 2月8日、 2月25日 ")

日常の見守り活動

らんぱと隊(橋北地区をランニングしながら、高齢者・児童の見守りをする) 50名による

パトロールの実施

3 地域資源の情報発信

慈善橋の案内看板の設置

橋北交流会館地域活動室の情報発信

(「おとなの小学校の文化祭」を地域活動室で開催して、地域活動室のPRを行うとともに、おとなの小学校の活動や取組みを地域の住民へ紹介をした。)

5. 経費(見込み)

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	大人の小学校 卒業式イベント報償金 各講座、教室講師報償金	216,000	地元出身音楽家 大学教授、栄養士地元講師
需用費	参加者教材	36,817	(株)白揚ブックセンター
	〃	36,396	(有)がんび舎
	〃	15,272	(有)青商店
	講師用飲料	1,125	四日市市上下水道局
	卒業行事開催ポスター・チラシ	28,620	(有)弘運館印刷
委託料	文化祭展示会企画運営	43,000	橋北おとなの小学校実行委員会
使用料	入学式・卒業式会場使用料	44,280	萬古陶磁器振興協同組合連合会
	社会見学バス借上げ	64,800	(有)ささき観光
委託料	高齢者ささえあいまちづくり 事業企画・運営委託	91,500	特定非営利法人ニコニコ共和国
需用費	見守り隊用ユニフォーム	71,940	(株)ワークマン
委託料	案内看板製作・設置委託	113,400	SSデザイン設計
需用費	参加者記念用品	48,697	(有)青商店
合 計		811,847	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
小学校入学者数	40人	42人
イベント参加者数	200人	250人

7. 成果

おとなの小学校も3年目となり、地域との繋がりが広がってきた。

地域包括ケアシステムの確立に向けて、介護予防教室を開催することができた。

地域にあまり知られていない地域資源の情報発信をすることができた。

8. 今後の展開

おとなの小学校としては、今年度で終了するが、今後は小学校の卒業生が地域活動の担い手として活動できる場を提供することが求められる。

地域包括ケアシステムの確立に向けて、今後も地域と協力していく必要がある。

今後も地域資源の情報発信をしていく。

橋北おとなの小学校（課外活動）



橋北おとなの小学校（文化祭：橋北交流会館）



慈善橋案内看板



介護予防教室



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 いきいき・はつらつ推進事業

地区名 中部

1. 望まれる地域の姿

高齢者の見守りや一人暮らしの高齢者に対する声掛け等を通じて、地域住民の全てが共に支え合い、誰もが安心して安全に、快適に、いきいき・はつらつと暮らすことができる地域

2. 地域の現状

- ・ 5地区にそれぞれの伝統等特色がある。
- ・ 高齢化の進展が著しい。
- ・ 各種の団体に後継者不足が見受けられる。
- ・ 住宅、商店街、工場等が混在している。

3. 課 題

平成28年4月1日現在において、市内28地区の中で、75歳以上の高齢化率が最も高い港地区、2番目に高い同和地区、3番目に高い中央地区を抱える中部地区において、平素の高齢者の見守りや一人暮らしの高齢者に対する声掛け等を通じて、地域住民の全てが共に支え合い、誰もが安心して安全に、快適に、いきいき・はつらつと暮らすことができる環境を創造していくことが求められる。

4. 実施内容

高齢化が進展し、また、一部の地区においては過疎化が進展する中部地区において、日頃から地域を挙げての高齢者の見守り等を通じて、地域住民の全てがいきいき・はつらつと暮らすことができるよう、中部地区内の5地区全体を対象に、また、中部地区の5地区（①共同地区、②同和地区、③中央地区、④港地区、⑤浜田地区）において、いきいき・はつらつ推進事業を実施

No.	内 容 ・ 目 的	開催日時・会場	講 師	参加者
① の 1	内容：5地区全体講演会 〔高齢者の痛みの治療について〕 目的：そもそも要援護者とならないように生きがいづくり・体力づくりのため、また、高齢者や住民の見守り、支え合い等の基礎的な知識を習得するため。	平成29年1月11日（水） 10時～ 本町プラザ1階ホール	医療法人 医院長（医師）	65名
① の 2	内容：5地区全体講演会 〔歩行と転倒について〕 目的：同上	平成29年1月19日（木） 10時～ 本町プラザ1階ホール	医療法人 理学療法士	44名
① の 3	内容：5地区全体講演会 〔姿勢について〕 目的：同上	平成29年1月26日（木） 10時～ 本町プラザ1階ホール	医療法人 理学療法士	61名
① の 4	内容：5地区全体講演会 〔健康と食事について〕 目的：同上	平成29年2月2日（木） 10時～ 本町プラザ1階ホール	社会福祉法人 理学療法士	58名
② の 1	<共同地区> 内容：健康ウォーキング 目的：地域住民が健康・生きがいを 実感できるよう、また、地区の魅 力を再発見できるように。	平成29年3月22日（木） 13時30分～ 共同地区内	四日市案内人協会 会員	42名
② の 2	<同和地区> 内容：ふれあいコンサート・ 笑いヨガ 目的：地区住民の交流の場、ふれ あいの場づくり	平成29年2月21日（火） 13時半～ 八幡町集会所	地元講師	23名

② の 3	<中央地区> 内容：ふれあいコンサート・ 笑いヨガ 目的：地区住民の交流の場、ふれ あいの場づくり	平成 29 年 1 月 29 日（日） 10 時～ 本町プラザ 1 階ホール	地元講師	33 名
② の 4	<港地区> 内容：三世代料理教室 目的：高齢者の生きがいがづくり、 世代間交流	平成 29 年 3 月 5 日（日） 10 時～ なやプラザ 1 階調理室	港地区住民	34 名
② の 5	<浜田地区> 内容：みんなで知恵を出し合う 会 目的：住民のふれあい、やすらぎ、 交流の機会づくり	平成 29 年 2 月 17 日（金） 19 時～ 浜田小学校コミュニティ 室	三重県福祉レクリ エーション協会 役員	29 名

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	[5地区全体]講演会	462,000	中部地区地域社会づくり 推進会議
	<実施内容①の1～①の4>		
委託料	[共同地区]健康ウォーキング	72,000	中部地区地域社会づくり 推進会議
	<実施内容②の1>		
委託料	[同和地区]ふれあいコンサー ト・笑いヨガ	70,000	中部地区地域社会づくり 推進会議
	<実施内容②の2>		
委託料	[中央地区]ふれあいコンサー ト・笑いヨガ	65,000	中部地区地域社会づくり 推進会議
	<実施内容②の3>		
委託料	[港地区]三世代料理教室	206,000	港地区社会福祉協議会
	<実施内容②の4>		
委託料	[浜田地区]みんなで知恵を 出し合う会[お互いさま]	77,000	浜田地区連合自治会
	<実施内容②の5>		
	[事業全般]	304,904	
印刷製本費	チラシ印刷、懸垂幕作成	278,964	(有)弘運館印刷 他
会場使用料	本町プラザ等	25,940	四日市まちづくり財団 他
合 計		1,256,904	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
①の1の講演会の参加者数	60 名	65 名
①の2の講演会の参加者数	60 名	44 名
①の3の講演会の参加者数	60 名	61 名
①の4の講演会の参加者数	60 名	58 名
②の1の健康ウォーキングの参加者数	20 名	42 名
②の2のふれあいコンサート・笑いヨガの参加者数	20 名	23 名
②の3のふれあいコンサート・笑いヨガの参加者数	20 名	33 名
②の4の三世代料理教室の参加者数	20 名	34 名
②の5のみんなで知恵を出し合う会の参加者数	20 名	29 名

7. 成果

いずれの講演会等についても、多くの方の参加を得ることができた。

地区住民がいきいき・はつらつと暮らしていただくことができるよう、また、高齢者の見守り・支え合いについて、一定の問題提起・考えるきっかけづくりができたものと思料する。

なお、医療や健康に関するテーマについては、地域住民の関心が高いことを認識することができた。

8. 今後の展開

さらなる高齢化の進展が切実に懸念される当地区において、住民のいきがい・健康・医療や住民同士の見守り・支え合いを地域の課題として認識していただく必要があり、住民の意識の高揚をはじめ、地域の人材育成等、関係団体と連携を図って地域が主体的に動いていただくことができるよう努めていきたい。

「高齢者の痛みの治療について」講演会



「歩行と転倒について」講演会



「健康と食事について」講演会



＜共同地区＞健康ウォーキング



＜同和地区＞ふれあいコンサート・笑いヨガ



＜中央地区＞ふれあいコンサート・笑いヨガ



＜港地区＞三世代料理教室



＜浜田地区＞みんなで知恵を出し合う会



平成28年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	～持続可能なまちづくり～ 次世代人材育成と地域で支える高齢者福祉事業	地区名	楠
------------	---------------------------------------	------------	---

1. 望まれる地域の姿

地域の幅広い世代がまちづくりに関わり、豊かな自然環境が保たれ、高齢者が安心して暮らせる地域

2. 地域の現状

・河川流域、海浜部に位置し、自然豊かな地域

・防災力の向上に力を注ぐ地域

・古くからの住民が多く、互助の精神が残る地域

3. 課題

・自然環境の保全、防災活動を始めとする持続的なまちづくりに携わる人材の育成

・認知症の方を始めとする高齢者を地域で支える仕組みづくり

4. 実施内容

(次世代人材育成事業)

①川の生き物観察と川遊び伝承事業(水生生物の観察会、手作りボートの乗船体験、笹船づくりの指導、カワニナ放流、案内看板の設置)(楠地区まちづくり協議会受託、H28.8.21 実施 参加者41人)

②楠の海自然観察会事業(地引網体験、海の生き物の観察会、魚のさばき方教室、海の生き物のパネル展示と講師による説明)(楠地区連合自治会受託、H28.9.17 実施 参加者 116 人)

③子どもたちの避難訓練事業(小学校児童、保護者、教職員、地域住民による校外3拠点への避難訓練、情報伝達訓練、防災講演会、配給訓練)(楠小学校 PTA 受託、H28.9.24 実施 参加者 556 人)

(地域で支える高齢者福祉事業)

④認知症予防巡回型健康体操教室事業(認知症、寝たきり予防筋力アップボール・踏み台体操と健康相談)(非営利活動法人楠スポーツクラブ受託、H28.7.12～12.6 全10回実施 参加者 152 人)

⑤イベント「くすりんフェスタ」事業(認知症を知ろう、学ぼう、考えようをスローガンにした子ども向け紙芝居、寸劇、関係機関の活動内容の展示、ふれあいサロン)(楠地区民生委員児童委員協議会受託、H28.6.11 実施 参加者 110 人)

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	①川の生き物観察と川遊び伝承事業	303,480	楠地区まちづくり協議会
	②楠の海自然観察会事業	275,400	楠地区連合自治会
	③子どもたちの避難訓練事業	332,640	楠小学校 PTA
	④認知症予防巡回型健康体操教室事業	259,200	非営利活動法人 楠スポーツクラブ
	⑤イベント「くすりんフェスタ」事業	194,400	楠地区民生委員児童委員協議会
需用費	その他広報宣伝費	134,526	(株)四日市事務機センター他
合計		1,499,646	

6. 目標及び実績

事業名(①②③ 次世代人材育成事業、④ ⑤ 地域で支える高齢者福祉事業)	指標 A(参加者数) 目標:実績	指標 B(将来的なまちづくり指導者期 待度)、C(参加者満足度)目標:実績
① 川の生き物観察と川遊び伝承事業	A 50 人: 41 人	B 70%以上:100.0% C 70%以上: 93.3%
② 楠の海自然観察会事業	A 100 人:116 人	B 70%以上: 87.7% C 70%以上: 96.5%
③ 子どもたちの避難訓練事業	A 100 人:556 人	B 70%以上: 94.2% C 70%以上: 85.1%
④ 認知症予防巡回型健康体操教室事業	A 200 人:152 人	C 70%以上:100.0%
⑤ イベント「くすりんフェスタ」事業	A 100 人:110 人	C 70%以上: 87.3%

7. 成果

・次世代人材育成事業については、概ね目標とした参加者があり、特に参加していただいた子どもたちに対するアンケートで、将来的なまちづくり指導者期待度が87%から100%という高い値を示したことから、自然環境保全、高齢者福祉、防災活動等において、将来、地域のリーダーとして活躍できる人材の育成、発掘につながる取り組みができた。

・地域で支える高齢者福祉事業については、認知症を予防するため、筋力アップを中心とした軽体操を身近な場所で実施することによって、高齢者が常日頃から心掛けなければならない運動を紹介し、日常生活の中に取り入れていただくきっかけとなった。また、イベント「くすりんフェスタ」では、子どもから大人まで幅広い層の方々に、紙芝居や寸劇によって認知症に対する理解を深めてもらうとともに、地域で高齢者を支えていくために今後何が必要か、考えるきっかけとなった。

8. 今後の展開

・楠地区の自然や文化、地域で支え合う災害に強いまちの実現に向けた取り組みなど、楠の魅力を外に発信しながら地方創生総合戦略に沿って、楠地区の交流人口、定住人口を増やす取り組みを行っていく。また、事業の参加者についても地区外の参加者を募ることも検討していきたい。

・地域で支える高齢者福祉事業の中で、高齢者の日常の生活支援に関する具体的な取り組みが必要であることが明確になった。今後は、この点を踏まえ、高齢者の日常生活において必要とされる内容を支援需要とし、この需要を充足させるための将来的なボランティアの育成や支援需用とボランティア団体のマッチングを行う組織づくりを地域で検討協議しながら、来年度の地域活動費事業につなげていきたい。

①川の生き物観察と川遊び伝承事業（水生生物の採取）



②楠の海自然観察会事業（みんなで地引網体験）



③子どもたちの避難訓練事業（「みのりの里」へ避難）



④認知症予防巡回型健康体操教室事業（ボール体操）



⑤「くすりんフェスタ」事業（認知症を学ぶ）

